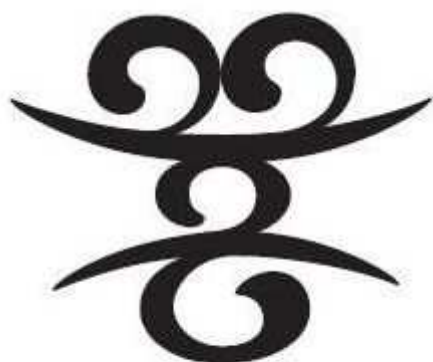


愛知県立芸術大学 F D 活動報告書

令和 6 年度



愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸術教育・学生支援センター

目 次

第1章 FD 活動報告書

1-1 美術学部／美術研究科 FD 活動報告書	2
日本画	日本画
油画	油画・版画
彫刻	彫刻
芸術学	芸術学
デザイン	デザイン
陶磁	陶磁
1-2 音楽学部／音楽研究科 FD 活動報告書	7
作曲（作曲）	作曲
作曲（音楽学）	音楽学
声楽	声楽
器楽（ピアノ）	鍵盤楽器
器楽（弦楽器）	弦楽器
器楽（管打楽器）	管・打楽器
1-3 教養教育科目 FD 活動報告書	10

第2章 授業評価アンケート報告 12

概要	13
実施授業一覧	20
授業評価アンケート結果（平均値）	26

第3章 FD 研修会 34

第 1 章 専攻 F D 活動報告書

美術学部・美術研究科

美術				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
日本 画	1 授業評価アンケートの実施	日本画実技Ⅰ～Ⅳの実習で下記質問事項のアンケートを実施(前期・後期) 1.どの程度出席したか 2.意欲的に取り組めたか 3.授業内容への興味関心が高まったか 4.「シラバス」は授業への取組みに役に立ったか 5.授業時間は十分だと感じたか 6.教員の話し方、話すスピードは適切だったか 7.教員とコミュニケーションはとれていたか 8.現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか 9.教室・設備については適切だったか 10.専門能力向上に役立ったか 11.総合的に評価すると良い授業だと思ったか 12.良かった点・改善点・要望点等の自由記述	下記の事項について、問題点を客観的に把握するため ・シラバスと授業内容の連携とその効果の実質化 ・教員・学生相互の意思疎通を一層強化する ・教育環境の質的な向上を図る	授業アンケートの意義を教員間で共有し、回答率の向上を常に意識するべきであるという知見が得られた。そのうえで、授業アンケートの結果から見えたものは、下記の点である。 ・相対的に見て、前期より後期の方が評価が高くなる傾向が見られた。これは教員が学生に関わる機会が増加したことに関係すると考える。しかしながら、授業アンケートが授業の質的向上に役立っているという意識がやや弱いように感じた。 ・7.にある、教員とのコミュニケーションはⅠ～Ⅳにおいて良好である。教員間における早い段階での情報共有が結果に反映したと考える。 ・9.の学習環境について、仮校舎への移転により改善が見られた。次年度後期は元の校舎に戻るため、各アトリエ学習環境およびWin環境については引き続き注視し、改善の必要性がある場合には、その方法を検討する。
	2 専攻科会議の実施	少なくとも、ひと月に一度、木曜日に専攻科での会議、協議を行なった。重要な案件の場合、事前に議題を準備、SNSにて共有し、短時間で効果的な会議を開催した。また、大学全体の長寿命化工事による校舎移転の年度に当たることから、これに伴う過去の遺物廃棄及び学習環境の効率化を共有し、短期間での移転と学生の学習環境の向上について協議した。	主に下記の事項について、情報を共有し、対応を協議するため ・課題の進捗状況 ・学生の受講状況 ・個人的な問題点とその解決方法	学生個人の課題等に対しては、教員による対応力の向上が確認できている。今後は、中長期的な展望や課題に対しては早めに協議を心掛けていきたい。
	3 教員・学生懇談会の実施	学部・大学院各学年の学生代表と教員全員による懇談会を不定期に実施。大学院を含め、各学年とも通年平均2回実施した。また、2にある長寿命化工事による校舎移転に伴い、短期間での移転が必要のため、これを教員・学生双方が、自分たちによる学習環境の向上ととらえ、十分協議したうえで、作業を共にした。	学生の本音から問題点を引き出し、教員の対応はもとより、教育環境の改善にも繋げていく	個人面談においては、学生各個人の課題を明確にし、アドバイスすることに注力した。随時実施することにより、それぞれの学生が目指す課題や問題意識の向上が総体的に確認できた。また年度内に実施された大学全体の長寿命化工事に伴う校舎移転は、教員学生が同じ方向を目指す内容を含むことから、専攻科内で学生と十分情報や問題点を共有する機会となった。次年度も再度移転の必要があるため、この機会を目的共有の機会として、対話を継続する。
	4 外部講師による講座の随時開催	下記の視点から課題を把握し、日本画の学びに厚みをつけるため、外部講師を招き、特別講座を実施している ・造形基礎の視点 ・日本画材料・保存修復の視点 ・急速な社会の変化と新たな表現の可能性 ・社会と日本画の接点と位置付けの視点	日本画の基礎・考え方の視野を広げ、学びを深める 多様化する学生のニーズに応える	外部講師による、より幅の広い視座からの講座は、現在の学びを客観的に捉えなおす機会となっている。例えば造形基礎の学びとして、日本画以外の分野、例えば彫刻家による人体デッサンの講座は、コンクール形式をとり、造形の基本的な学びなおしの機会となっている。また日本画の材料や保存修復の視点は、自分たちの学びに歴史的な意義を加味する学びとなっている。また様々な分野で活躍する日本画作家による講座は、社会における現代日本画の位置づけや活躍する分野を客観的に見つめる機会を提供している。次年度もこれらの学びの充実を図っていく。
油 画	1 専攻会議の実施	■実施日時: ・原則隔週水曜日(13:30-)に実施。 ・その他必要と認められた場合に臨時専攻会議を開催する。 ■出席者: ・油画専攻全専任教員、教育研究指導員(助手長1名)	・カリキュラム改善 ・授業に関する情報共有、意見交換、改善 ・専攻運営の方法、方針の議論	・講評方法をはじめ授業スケジュールなど、慎重に議論を重ね、状況を見極めながら改善をおこなった。 具体的には、来年(2025)年度後期に長寿命化工事に伴った一部アトリエ拡張及び版画関連教室の仮校舎への移動が生じるため、授業スケジュールを調整、アトリエ配置についても検討した。 ・授業内容に関しては、FD委員会が主体となる授業評価アンケート結果及び油画専攻がおこなう授業評価アンケート、学生連絡会を踏まえ、より良い日程や内容になるように油画専攻全専任教員で協議し、確認をおこなった。 ・受験生の人数と質を確保するため、学部入試の出題方法や内容について検討と協議を重ねながら検証した。 ・入試広報活動、大学案内に掲載する内容について、定期的に協議を重ねた。
	2 油画専攻授業評価アンケートの実施	油画専攻独自の「油画専攻授業評価アンケート」(記名式)を実施する。 ■対象授業: ・1・2・3年次に開設する全ての講座 ・油画専攻が担当する関連科目 ■アンケート内容・形式: ・アンケートは各講座・授業の担当教員が設問を考案し、授業改善に直結した具体的な実質的な授業アンケートとする。 ・授業課題・内容変更等により必要に応じて担当教員がアンケートの形式・内容を直直す。 ・アンケートは各講座・授業終了時に教育研究指導員が配布回収し、原本を教員室で管理する。 ■アンケートの活用 ・アンケート結果は授業終了後に担当教員が確認し、授業改善に活用する。 ・年度初めにFD委員が、前年度のアンケート結果を専攻会議で報告すると共に、改善点を情報共有する。	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善 ・授業内容の向上 ・学生の専門能力の向上と成果の確認 ・教員の対応能力の向上	・アンケートは担当教員が設問を考案しており、具体的な授業アンケートとなっているため、授業への具体的な改善に活用している。年度当初にFD委員が、前年度の結果を確認し、専攻会議で報告・検討・情報共有した。 ■2023年度授業評価アンケート実施講座・授業 油画実技Ⅰ(講座Ⅰ～Ⅰ-7※Ⅰ-7は3講座制)、材料研究 10件 油画実技Ⅱ(Ⅱ-1～Ⅱ-12、写真講座) 13件 油画実技Ⅲ(文章講座) 1件 樹立科目(素描及び色彩、版画研究) 2件 ■アンケート結果 自由筆記が中心となっており、授業に対する習熟度を確認する機会となっている。様々な率直な意見と共に、要望も記載された。 ■アンケート結果をもとにした改善点等(2024年度事例) ・2年生講座において、世界の画家を紹介するスライドレクチャーを再開した。 ・2023年度に海外研修で不在であった教員の講座内容を、2024年度に未受講且つ要するのあった学生に対して特別授業として開講した。 ■その他2024年度改善点(アンケート方式) 後期開講講座の一部をFORMSによるアンケート形式とし、データを教員室で管理する体制とした。アンケートデータは教員室のPCIにもフォルダーを置き、いつでも閲覧できるようにした。2025年度に全講座FORMSを使用したアンケートとすることを検討する。
	3 授業評価アンケートの実施	ユニバを使用したオンライン上での授業評価アンケート(無記名式)を実施する。 ・質問内容 1.あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。 2.あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 3.この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。 4.「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。 5.授業時間は十分だと感じましたか。 6.教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。 7.教員とコミュニケーションはとれていましたか。 8.あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受ける事ができましたか。 9.教室・設備については適切でしたか。 10.この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。 11.授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いますか。 * 学生が特に良かった点と判断した点、要望などを自由記述。 ■対象授業: ・アンケートの対象授業については、専攻会議にて決定する。 ■アンケートの活用 ・油画専攻FD委員がアンケート結果を専攻会議にて報告し、授業改善に向け検討をおこなう。	・授業内容、シラバス、カリキュラム、授業期間などの改善 ・授業内容の向上 ・学生の専門能力の向上と成果 ・教員の対応能力の向上 ・教育研究機関としての施設等の不備調査、改善	■2024年度授業評価アンケート実施授業 材料研究(前期に実施) 油画実技Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(通年科目に付き後期に実施) 油画特別演習Ⅲ、Ⅳ(通年科目に付き後期に実施) ■アンケート回収率 アンケート回答の機会を専攻で設けることで(材料研究:前期全体講評会後、油画実技Ⅰ～Ⅳ及び油画特別演習Ⅲ、Ⅳ:大掃除終了後)、回収率は大幅に向上した。材料研究(96.2%)、油画実Ⅰ(66.7%)、Ⅱ(65.4%)、Ⅲ(54.2%)、Ⅳ(91.3%)、油画特別演習Ⅲ(54.2%)、Ⅳ(91.3%) ■アンケート結果(設問) ・「設問11 授業全般について総合的に評価すると良い授業だと思いますか。』」に対する(強くそう思う ややそう思う)の回答は油画実技Ⅰ(88.9%)、Ⅱ(82.4%)、Ⅲ(100%)、Ⅳ(85.7%)であり、概ね評価が高く、また他の項目についても概ね高い評価であり、油画実技の授業内容・指導及び学生の意欲・興味関心も高いことが確認できた。 ・「設問4 「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。』」に対する(強くそう思う ややそう思う)の回答は、油画実技Ⅰ(61.1%)、Ⅱ(64.7%)、Ⅲ(53.8%)、Ⅳ(33.3%)となっており、記述に対して更なる検討が必要であることが確認できた。 ・「設問9 教室・設備については適切でしたか。』」に対する(強くそう思う ややそう思う)の回答は油画実技Ⅰ(38.9%)、Ⅱ(35.3%)、Ⅲ(38.5%)、Ⅳ(38%)と例年の評価と同じく低い評価であることが確認できた。 ■アンケート結果(自由筆記:全52件) 油画実技Ⅰ・Ⅱでは、全体講評について、「時間が短い」「2日に分けて行ってほしい」との意見・要望の記載が多数あることが確認できた。また、「寒すぎる」「空調がきかない」「給湯器不調」等、施設設備に関して多数の記載を確認した。また、油画実技Ⅲ・Ⅳでは、アトリエのスペース不足等、施設面での意見が多く記載されていることを確認した。 ■2025年度に向けた改善点等 ・油画実技Ⅰ及びⅡの授業評価アンケート結果を踏まえ、学生の希望・要望の多かった、「全体講評会」の実施方法について、専攻会議で検討をおこなう。改善策としての新たな施策を令和7年度の「全体講評会」から実施する。 ・アンケート回収率は今年度大幅に向上したが、正確な状況把握を目指し、更なる回収率の向上を図る必要があるため、具体的な施策を検討する。 ・シラバスについては、通年での記載となっているため、直接的に授業の参考になりにくい面があると考えられるが、各講座実施前に提示する各シラバスの周知・活用を促すと共に、通年授業シラバスの記述に対して更なる精査・検討をおこなう。 ・アトリエの面積については、2025年度後期から長寿命化工事によって一部アトリエの拡張が実現するため、学生の動向を注視し、学生連絡会等で意見聴取に努める。 ・施設、設備については、毎年、学生連絡会等においても「暑い(寒い)」「WiFiがない」「給湯器不全」など、改善を求める具体的な意見があるため、引き続き専攻として大学に改善を強く求めてゆく。 ・自由筆記に記載された意見(油画実技Ⅰ～Ⅳ:45件、油画特別演習Ⅲ、Ⅳ:7件の全52件)については、専攻会議にて精査検討をおこなう。 ・全体講評会の在り方・実施方法については、重点検討事項とする。 ■授業評価アンケート結果報告シート 授業評価アンケート結果報告シートを活用して、授業改善に努める。令和6年度の授業評価アンケート結果をもとに、油画実技Ⅰ及び油画特別演習Ⅲについて記載、報告する。
	4			

油 画	5 学生との意見交換会	<p>教員と学生との信頼関係を維持するため、学生、教育研究指導員、教員が一堂に会し、ラウンドテーブル会議形式で意見交換会「学生連絡会」を開催する。</p> <p>■出席者：11名～12名 学生8名（学部各学年の代表者2名） 教育研究指導員1名（助手長） 教員2名～3名（各学年専攻担当教員が年間を通して持ち回りで出席）</p> <p>・意見交換会の内容は授業関連以外にも、施設等に対する要望、学校生活の様子など幅広く意見交換する。 ・意見交換会後、内容について専攻会議にて報告し、必要に応じて議題として議論をおこなう。 ・要望の回答については、要望内容と専攻としての回答を併記した書面を専攻掲示板に提示し学生に周知する。</p>	<p>・学生間及び学生教員間コミュニケーションの調査・ハラスメント防止 ・施設の不備調査と改善</p>	<p>■2024年度「学生連絡会」実施実績 年度を通して4回（5月8日、7月10日、10月9日、1月8日 12:05-）実施した。 ・学生と教員の間でのコミュニケーションは適切に維持され、各教員は学生要望にできるだけ応えられるよう、関係する委員会や部署などに要望や改善を年間を通じて報告した。 ・これまで同様、アトリエの空調・害虫・Wi-Fiなど設備改善要求が年間を通して多く、改善されないことへの不満が多く報告された。また、昨年度に続き、画材屋を学内に設置する必要を訴える切実な要望があった。また、長寿命化工事関連・生協に対する要望も確認された。 ■2024年度要望と回答についての詳細 年間を通じ学生からの要望（34件）と専攻としての回答（34件）を油画専攻掲示板に書面掲示した。 内訳：アトリエ施設・環境：25件、その他9件（画材屋要望3件、生協2件、教員への要望1件、授業内容2件、工事関連1件）</p>
	6 作品写真アルバムの作成	<p>・学生が授業で制作した作品を、すべてデジタル撮影し、油画サーバーで管理する。 ・PCやタブレットを用いてデジタルアーカイブしたデータを教員が閲覧できるようにする。</p>	<p>・高等美術教育としての資料のアーカイブ化 ・新たな講座内容や教育研究教材を開発するための資料 ・講座内容改善のための資料</p>	<p>・講座内で実施する面談や講評時において、有益な情報として学生の学習状況の確認や教育研究指導に活用した。作品写真アルバムの作成を継続することを確認した。 ・デジタル化したことによって、データの保管や二重三重のバックアップ、ウィルス対策などについて対応をおこなっている。</p>
	7 学生ファイルの作成	<p>・学生ファイルとは1年次と2年次の各講座、3年次と4年次のチューリアル授業及び卒業制作作品などについて学生自身がその内容や成果を記録する。 ・全在学生のファイルを油画専攻教員室キャビネットに保管し、教員や学生本人が閲覧できるものとする。作品写真アルバムと合わせて利用する。 ・卒業後の保管期間は5年間とする。</p>	<p>・個々の作品制作の変遷を、年を追って確認できる ・学生が継続的な問題意識を持って作品制作に望むための助けになる</p>	<p>・学生ファイルは学生本人だけでなく、専任教員や非常勤講師にとっても、作品の変遷を考察、検証できるため有用な資料となっている。今後も学生ファイルの作成を継続することを確認した。</p>
	8 外部講師の招聘	<p>芸術資料館で開催する「博士前期課程油画・版画領域研究発表展」及び「卒業・修了制作展」における講評会に外部講師を招聘する。 ・講師委嘱に関して専攻会議で講師選定・確認をおこなう。</p>	<p>・博士前期課程に在籍する学生の研究進捗状況の客観的且つ専門的な視点からの確認 ・専門的知識の補完を図り、教育研究に役立てる</p>	<p>「博士前期課程油画・版画領域2年研究発表展」及び「博士前期課程油画・版画領域1年研究発表展」の作品講評に木村友紀氏（作家）、前田岡岳亮氏（作家）を招聘した。専任教員とは角度の異なる観点からの講評もあり、非常に有益な時間となった。「卒業・修了制作展」作品講評に石崎尚氏（愛知県美術館学生員）、勝田琴絵（名古屋美術館学生員）、石田大祐（豊田市美術館学生員）を招聘した。キュレーターの客観的且つ専門的な視点からの講評内容となり、学生、教員共に非常に有意義な時間となった。</p>
	9 アトリエ・教室等の改善	<p>・油画専攻学生にとって、作品制作が最も重要な勉強方法となる。そのため、アトリエ環境は、そのまま教育研究成果や有意義な講評会や討論会などの指道にも影響を与える。 しかし、現状の施設状況では、「制作スペースの狭さ」「冷暖房機能不足」「自然環境の整備不足による学生生活の安全性が守られていない」「Wi-Fiなどのデジタル関連の未整備」「水場環境の不備」という大きな問題点がある。この問題についての解決策を随時、油画専攻で協議し、各種委員会などで報告している。</p>	<p>・各専攻の中で最も1人当たりの制作環境面積が少ない油画学生に対しての改善と拡充</p>	<p>「授業評価アンケート」及び「油画専攻授業評価アンケート」の結果や学生との意見交換会「学生連絡会」で学生から出された要望から、全学年を通して、アトリエの狭さと設備に対する不満が非常に大ききことを、再確認した。 ・現状施設の重点的改善点 1、制作スペースの確保 2、冷暖房環境の機能強化 3、学内Wi-Fi環境の構築 4、水場環境の改善 上記の重点的改善点は油画専攻だけでは解決できないため、全学的に考えていく必要がある。例年と同様に、2024年度においても、「油画専攻授業評価アンケート」及び「学生連絡会」において要望・意見があった場合には、その都度、施設等に改善要望を専攻として伝え、改善を求めた。 なお、2025年から長寿命化の進捗により、一部アトリエが拡張するため、学生の意見・要望を注視し、検証・評価をおこなう。</p>
彫 刻	1 授業評価アンケートの実施	<p>前期と後期の終わりに学生の授業評価を集約し、授業の理解度及び学修確認をする。</p>	<p>授業運営において、学生の学修状況を常勤教員が把握し授業改善を務めるため。</p>	<p>アンケート回収率が悪かった（また学生数が少人数）ために、正確な授業把握がしづらく、正確な判断が難しい。とはいえ、継続的なアンケート結果は授業のあり方を再確認及び改善を図る良い方法である。 今後の課題として、アンケートの内容と授業改善方法の因果関係を把握し正確な活用方法を協議する必要があると思われる。</p>
	2 新カリキュラム案の実施（授業内容の改善）	<p>R6年度から始められた学部実技授業に対しての新カリキュラム。</p>	<p>新彫刻棟、予算、新常勤教員、新非常勤教員、旧カリキュラムとの兼ね合い、また今後の美術の動向など踏まえ、対応可能なカリキュラム作成を行う。</p>	<p>R6年度から実施された現代に則した新カリキュラムは、大きな混乱もなく問題なく実施された。専攻会議等で細かな変更や今後の展望なども協議され、全体的に有意義な授業体系になったと思われる。また完成年度まで、あと3年間あるため今後について引き続き専攻会議にて協議を続ける。</p>
	3 新彫刻棟での運営実施	<p>R6年度から始められた新校舎での全ての運営実施。</p>	<p>主に新彫刻棟と新カリキュラムに合わせた円滑な専攻運営。</p>	<p>主に予算運営、工房運営、安全管理、授業運営、入試運営について新しい運営方法が問題無く施行された。まだ1年目ということもあり、今後について引き続き専攻会議にて協議を続ける。</p>
	4 専攻会議の実施	<p>実施日時 隔週水曜日13:00から</p>	<p>・年間の全ての専攻運営について決議する。 ・中期的目標を実現するために、将来計画会議を定期的に開催する。</p>	<p>専攻会議は専攻運営に欠かせない大事な場であるが、近年その細かな対応決議が専攻の負担になっているのも事実である。そのため今後において、質と量のバランスを考える必要がある。</p>
	5 オープンスタジオの実施	<p>R6年度の新カリキュラムから始められた前期後期の終わりに始められたオープンスタジオの実施。 ・常勤講師の講評 ・客員教授の講評及びレクチャー ・外部識者の講評及びレクチャー ・学生主導の全体展示</p>	<p>前期後期の終わりに行われる講評会に合わせ、全学年の作品展示をし、豊かな場と時間を創出する。</p>	<p>学生に主体性を待たせることによって、表現行為の本質を学び与える場となった。問題点として、どこまでオープン（現時点では学内関係者限定）にしていかが課題となっているが、継続的に教員間で議論を重ねており、今後に活かしていく。</p>

芸術学	1	授業評価アンケートの実施	前期・後期それぞれ授業評価アンケートを実施した。対象科目は、基礎実技および講義系科目を中心とし、全学で使用されているフォーマットを用い、ユニバで回答してもらった。	履修生からの評価やコメントを参考に、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	アンケート結果は専攻内で共有し、学生のニーズや要望を汲み取るよう心がけた。履修生への回答呼びかけを工夫したところ、昨年比で回答率が上昇した。概ね授業に満足している様子が窺え、教室の空調（効きすぎる、あるいは効かない）といった不満が散見された。なお昨年度の授業評価アンケートにて、施設に关して加湿器の設置を求める意見があった。メンテナンスの問題等から講義棟などの教室では対応が難しいと思われたが、芸術学棟の教室では加湿器・除湿器を導入し、学習環境の向上を図った。
	2	専攻会議の実施	原則として隔週水曜日11-12時間開催する。FDに関しては、教員・学生ともに少人数による教育の利点を活かし、学生一人一人の学習状況を教員間で共有して必要なサポートについて検討する。あわせて、専攻の今後の方向性を視野にいれながら、カリキュラム内容を検討する。	専攻としての目指すべき方向性を確認しながらカリキュラムを実施し、学生の学習環境等を支援する。	前年度に続き、主任教員が芸術資料館館長など要職に就いたことで多忙となり、定期的ではなかったものの必要に応じて開催した。教員の間で学生の状況について情報を共有し、それぞれの担当授業で必要な対応をした。学生に支援が必要な場合は、保健室や学習支援コーディネーター、カウンセラーを紹介した。また、学習上の困難を覚える学生について、保健室・学生支援係と専攻教員で連携し、対応に当たった。
	3	授業内容の改善	(1)「芸術学総合研究1」 1年生の必修科目「芸術学総合研究1」(通年)のうち前期の前半7コマの授業を、いわゆる初年次教育の内容に改変した。キャンパスを歩いて案内したり、図書館の使い方を実地で教えたり、学生生活上の注意や就職・進学についてレクチャーをするなど、専攻教員が数回ずつ分担した。後半8コマは美学・西洋美術史・日本美術史・現代アートへの学び方について各担当教員が1コマずつ話した他、客員教授による講義を設定した。なお後期は学生が順に研究発表をする内容で実施し、客員教授の講演会を他専攻の学生も聴講できるように実施した。 (2)「プロジェクト研究」 3年生の必修科目「プロジェクト研究」は以前は学生が卒業論文に沿う形でテーマを設定し、教員の指導を受けながらレポートを最終的に提出する形で実施してきた。学生たちの多様化する学習姿勢や環境、研究の進み具合に応じるため、一律レポートでの成績評価を廃し、学生に応じて教員が個別に指導をして研究成果を評価する、より柔軟な内容へと変更した。	(1)新入生がスムーズに大学生活に馴染み、大学での勉学に取り組みやすくなるため。 (2)個々の学生に応じた柔軟な教育内容を実施するため。	(1)概要の通り実施できた。さらに「芸術学総合研究1・2・3」では前期・後期の冒頭で保健室スタッフに来てもらい、健康診断やメンタルヘルス・ハラスメント等の相談先について話してもらうようにした。また、卒業論文の中間発表会へなるべく在学生の出席を促し、少しでも学年を越えた交流や学び合いが生じるように工夫した。大学として初年次教育が実施される令和8年度以降は、専攻に合わせた内容をさらに工夫していきたい。 (2)従来通り研究成果をレポートにまとめて提出する者、ゼミ形式をとり読書会の形で本の要約を提出する者、論文要約を作成して提出・添削する者など、一人ひとりに応じた個別教育を実施することができた。その分、成績評価には教員同士のすり合わせが必要であり、専攻会議内で相談をした。
	4	カリキュラムの検討	令和8年度へ向けて全学でカリキュラムを検討中であるのに合わせ、専攻のカリキュラムを各科目の位置付け・内容・単位数など一つずつ吟味し、必修科目・選択科目などをわかりやすく示す、新しい履修規定を作成する。	学部生の4年間における履修内容を充実させる方向でカリキュラムを改善するとともに、履修方法をわかりやすく示す履修規定を作成する。	大学全体の方針や解釈の変更に合わせて検討を繰り返した。カリキュラム全体を体系的に整えることで、学生が自由に科目を選択できる余地を残すことのバランスをとりながら、2025年度も継続して審議する。
デザイン	1	専攻会議の実施	毎週水曜日18:00より定例のデザイン専攻会議を実施する。デザイン専攻教員と教育研究指導員間でFD関連の情報共有を図り、授業運営や学生指導、研究活動等に活かす。各教員から授業の実施状況やそこで発生した問題点等を情報共有し、その都度議論をすることで、今後の授業運営やカリキュラムの改善を図る。実技授業、関連科目の内容や運営方法についての検討見直しを行う。	デザイン専攻の授業が社会の変化に柔軟に対応した授業運営となるよう、カリキュラムの刷新や充実を図る。教員と教育研究指導員間において、学生の動向や施設・備品整備等の情報を共有し、より良い授業が行われるよう検討する。	社会環境の状況に即した効果的なカリキュラムの設定と、効率的な授業運営ができた。デザイン専攻の将来構想に向けた継続的な協議検討と、具体策の提示・実施をすることができた。学生の動向・出席状況等について、個人情報に留意しながら教員・教育研究指導員間で適切に共有し把握することができた。
	2	新カリキュラムの継続的な運営	社会のニーズや問題点を解決するために、デザイン実技ⅡおよびⅢのカリキュラムにおいて開講する「社会連携プロジェクト(SOP)」の実施によって、公共的・社会的に資する具体的なデザインの取り組みを充実させる。2年生学生を主たる対象とし、起業家精神を涵養するための「アントレプレナーシップ教育」の実施によって、「自身の能力を社会のことに生かす」能力を発掘し、卒業後の進路選択を拡大させる。R4年度入学1年生を対象に実施した実技新カリキュラムについて、引き続き適切な運営を図る。	社会や時代の変化に柔軟に対応し、公共的・社会的な課題や問題に取り組む解決ができる人材の育成を目的とする。起業家精神を涵養し、将来設計の選択肢を増やすことで、自身の能力を社会に還元する機会を拡張する。基礎から応用に至るデザイン実技と理論構築の力を養い、より専門的かつ実践的な課題を行う中で、様々な状況に対応できる能力を育む。	社会連携プロジェクトが継続して実施されることにより、学生が「社会連携」「社会貢献」という視点によって課題に取り組む意識が醸成された結果、卒業制作のテーマ設定に活用される例が見られた。アントレプレナーシップ教育が継続して実施されることにより、学生の意識に「起業」という選択肢が芽生えた結果、就職活動の意味をより自分ごととして捉えるという効果が生まれた。課題テーマを年間9種に分類し、課題選択枠を2種選択に絞ったことにより、2年間で包括的に課題を体験できる仕組みが成立した。
	3	就職・企業説明会の実施	就職・企業説明会を積極的に実施・運営し、学生の卒業・修了後の進路に関して幅広い情報と選択肢を提供する。効果的な就職・企業説明会の実施のために、学務課教育支援担当と連携して運営の協力にあたり、デザイン棟プレゼンテーションルームを実施会場として積極的に提供する。	卒業・修了後の進路について、より多様な選択肢を提供することで、自身の能力・志向・将来展望に合致する方向性を見出す機会となることを目的とする。社会の要請や動向を体験的に知る機会とする。	学務課に配属された就職支援担当職員との連携を図ったことで、就職・企業説明会の実施機会と広報周知活動が飛躍的に拡大した。デザイン棟プレゼンテーションルームを就職・企業説明会の実施会場として提供することで、学生の参加数が大幅に向上した。就職決定率の向上や、希望職種への内定獲得など、学生の進路希望に沿う結果報告が増加している。
	4	授業評価アンケートの実施	例年と同様に、学生からの率直な授業評価や感想を得る為、前期・後期それぞれ実技授業・関連科目授業の各授業の授業評価アンケートを行う。	学生からの客観的で率直な授業に対する評価や感想を得ることにより、今後の授業運営や効果的な授業計画に役立てることを目的とする。	ここ数年の授業評価アンケートでは、授業に対する評価は概ね良好、肯定的な結果が多数を占めており、学生満足度が高い授業が展開されていると自己評価している。一方、回答率の大幅な低下や、自由記述欄において空欄(無回答)が大多数を占めるなど、学生からの率直な授業評価や感想が得られなかったについては確認が得られていない科目も散見される。アンケートの内容と回収方法、またその評価をFDとして活用する仕組みについては、現在鋭意検討中である。
	5	博士前期課程学生における研究ノートの作成と活用	大学院博士前期課程学生に対して、大学院理論研究の学修成果として、年度ごとに自身の研究進捗状況及び到達成果をまとめた「研究ノート」の作成を義務付ける。作成・印刷された「研究ノート」を、大学院創作研究の一環として定期的に開催される「研究発表会」におけるサブテキストとして活用する。	理論研究の成果を研究論文のフォーマットに従って可視化することにより、より客観的かつ社会的な視点からの評価を向上させることを目的とする。理論研究と創作研究の内容・成果に齟齬のない研究が実施されているかについて、教員全体で把握できる機会とする。	研究論文の書式を意識しながら研究ノートを作成することによって、学会発表や紀要への投稿などの研究成果発表の機会に必要な博士前期課程学生に相応な能力が着実に身につけている。研究発表の機会にサブテキストとして活用することによって、学生の研究内容や概要が事前に教員間で共有されることにより、より充実した研究発表会を実施・運営することができた。
	6	グループウェア(Teams)の活用による学生・教員間の情報共有の円滑化	教員、教育研究指導員、学生との間で、運営上必要な情報の共有や個別の伝達事項などを、グループウェア(Teams)で一元化して行う。	さまざまな状況や対象者における情報伝達や共有内容に沿ったコミュニケーションを円滑かつ迅速に行うことを目的とする。授業資料の共有や参考資料などへのアクセシビリティの向上と、作品資料の保存に資する。	選択課題の内容や各研究室の授業運営、その他学生への連絡・伝達事項等においてグループウェア(Teams)を一元的に使用することで、「情報認識不足」「伝達漏れ」などのケアレスミスが著しく減少した。課題進捗状況や制作データの共有など、デザインワークにおける成果の提出や蓄積にも活用されることで、事務作業の煩雑さや確認にかかる手間などが大幅に軽減され、教員及び教育研究指導研究員の業務負担の減少に多大な貢献があった。

陶磁	1	専攻会議の実施	原則毎週金曜日の11時より、実施。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 1. 授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 2. 学生の受講姿勢や状況について確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 3. 関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 4. 非常勤講師の人選、授業内容や授業時間数の精査。 5. 入試内容の検討。 6. 各参加委員会からの報告・共有・議論	学生の受講意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認。教員全員による学生状況の把握。大学の教育環境の整備に努める。入試内容の検討。カリキュラムの効果的運営。	履修規定については、分かりづらい点の見直しを行い、学生にとってより理解しやすい内容となるよう改善を図った。カリキュラム全体の構成や到達目標については、継続的に検討を重ね、専攻の専門性をさらに高める観点から、「陶磁論」の授業内容の刷新を進め、それに適した非常勤講師の選定も行った。 入試に関しては、総合型選抜を含むすべての試験を円滑に実施することができた。また、対面形式でのオープンキャンパスも滞りなく実施し、来場者の理解と関心を深める機会とすることができた。
	2	授業評価アンケートの実施	授業評価アンケートを実施。 陶磁史ⅠA・B 陶磁実技Ⅰ・Ⅱ・A・B 陶磁論A・B 陶磁原科学 陶磁特別実技Ⅱ	学生から率直な授業評価や感想を得て、今後の効果的な授業運営やカリキュラム改善に生かす。	カリキュラムの達成目標について検討を行い、学生の理解度や学びの状況を踏まえて、次年度のカリキュラム内容に反映させていく方針とした。 また、学生の授業に対する意見や要望、授業から得た学びを把握するために、定期的に学生とのミーティングを実施した。 加えて、授業アンケートに寄せられたコメントを教員間で共有し、内容の改善に向けた検討を行った。
	3	教育環境と工房環境の改善	1. 2022年度より本格的に開始された陶磁専攻の3年生以上を対象とする3つの専門コース（陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース）においては、それぞれに2名の専任教員が配置され、連携して専門性の高いカリキュラムを展開した。また、コースを横断した合同講評会等を通じて学生同士や教員間の交流を促進し、教育的な相乗効果の創出を図った。 2. 学生の創作活動を支えるために、制作機材（工具類・窯設備など）の整備・修理を行い、より良い制作環境の整備に努めた。 3. 授業内容の質の向上と教育体制の強化を目的として、非常勤講師の配置や担当内容の見直しを行い、より専門性に合った人材の確保を図った。 4. 学生の制作進行状況を適切に把握し、きめ細やかな指導につなげるため、ゼミ形式の授業や小規模ミーティングの機会を増やし、学生と教員の対話を強化した。 5. 国際連携の一環として、ソウルテック科学技術大学との共同授業を実施し、両大学間の教育交流を推進した。また、今後の継続的な協力体制を築くために、MOA（協定書）締結に向けた協議を行い、実際の取り決めに至った。	現行の国内外の陶芸を取り巻く環境に即した教育、学生が必要とする授業内容の提供を図る。	各専門コース（陶芸コース、セラミックデザインコース、芸術表現コース）では、それぞれのカリキュラムに基づき、学生との継続的な対話を重ねながら、主体的かつ意欲的な指導が展開された。学生の関心や制作傾向を踏まえた柔軟な対応がなされ、学びの質の向上に寄与した。
	4	産学共同プログラムの実施	瑞浪市産業技術研究所主催による産学官連携課題「ものづくり研究会（3Dシステムを活用した商品開発）」への参加。古川美術館（名古屋市中千種区）との連携授業の実施。大東亜窯業（株）デザインコンベンションやAtelier Roots、LIXILショールーム名古屋、富山デザインライアルプロジェクトなどと産学共同の取り組み。	産地の生産現場を知り、ものづくりに対するリアルな経験と表現の幅を広げる。地場産業が抱える課題と今後の可能性について、考察を深める。社会性を持つ現場プロジェクトやコンペティションへの参加、展示企画会・実施により学生たちのものづくりに対するリアルな経験と表現の幅を広げる。	・瑞浪市産業技術研究所主催の「ものづくり研究会（3Dシステムを活用した製品開発）」に参加した。瑞浪市内の窯業関連企業（2社）株式会社深山、山喜製陶株式会社と本学陶磁専攻（学生7名が参加）の連携により、複数のデザイナーを創出した。選定された8つのデザイン案は、瑞浪市産業技術研究所協力のもとプロトタイプを制作し、2025年1月にセラミックパークMINOで開催された「美濃焼新春見本市」にて成果発表を行った。 ・大東亜窯業株式会社と陶磁専攻が共催する「大東亜窯業デザインコンベンション」では、学部1年生から博士課程までの幅広い学生13名が参加し、合計31点のデザイン提案がなされた。提出された作品は社内外から高い評価を受け、複数の優秀作品が選出された。その内作品2点の商品化が決定した。2月28日に大東亜窯業本社にて投資賞が実施された。こうした成果を踏まえ、同コンベンションは2025年度も継続開催されることが決定した。 ・2024年8月、古川美術館為三郎館にて、芸術表現コースの3年生と卒業生が連携し、ギャラリートークを共同開催した。事前に同館所蔵の学芸員より、美術館の成り立ちや日本文化における器とてなしの関係性について講義を受け、学生たちはそれを踏まえながら菓子器の制作に取り組んだ。構想段階から試作品に至るまで何度もブラッシュアップを重ね、最終的に美術館内の喫茶部門での実用・販売と連動した展示企画が実現。来場者からは、完成度の高い企画として高く評価された。 ・Atelier Rootsとの産学連携プロジェクトでは、昨年度に続きユーザーオブザーベーション（利用者観察）というリサーチ手法を取り入れ、学生たちがユーザーの視点を反映させながら花器のデザインに取り組んだ。完成した作品は店舗にて展示・販売され、単なる制作にとどまらず、「流通」と「消費者の視点」を実体験を通して学ぶ機会となった。 ・LIXILショールーム名古屋との協働プロジェクトでは、ショールーム内の展示空間に学生作品を設置する企画が立ち上がり、4年生から博士課程までの有志学生が中心となって自主的に取り組んだ。本企画は、暮らしにおける陶磁器の新たな価値提案を目的としており、2024年5月と10月の2期に分けて展示を実施。来館者に対して、陶磁と住空間との関係を再考させる試みとして注目された。
	5	客員教授による講評会の実施	外館客員教授による卒業制作展での講評会を実施。	外部からの先生に講評してもらう事で客観的視点を学ぶ。	卒業・修了制作展では、専門的な視点を持つ外部の評議者を招聘し、全学生の作品に対して個別に丁寧な講評を実施いただいた。学生たちは自身の作品について第三者の専門的な視点から評価を受けることで、これまでの制作を客観的に見つめ直す貴重な機会となった。また、講評を通じて新たな表現の可能性や、今後の創作活動における具体的な課題・改善点を明確に把握することができ、卒業後の活動に対する意識や自覚の深化にもつながった。
メディア映像	1	専攻会議の実施	原則毎週水曜日の15時より、定例のメディア映像専攻会議を実施した。 ・授業の実施状況や問題点などを教員間で共有し、授業運営及び計画、カリキュラムの改善を図った。 ・学生の受講状況の確認及び、情報交換を行なった。特に出席、課題提出状況など、問題のある学生については、教員間で情報共有を行なった。 ・FDに関する議題については随時行い、情報の共有を図った。 ・各委員会の報告と専攻としての方針を記録し、共有した。 ・大学行事など大学が主催するイベントや公務においては、各教員の専門性に合わせ、主担当を決めることで円滑な運営を務めた。	・授業のスムーズな運営により、受講生の学修時間を有意義にする。 ・授業時間外での積極的な学修意欲の向上。 ・学修環境の整備。 ・受講生の研究及び課題に対する習熟度の向上。 ・委員を通じた各委員会との情報共有	・毎週の専攻会議にて教員間で情報共有を行うことで、授業における様々なレベルでの問題点を共有することができ、早期対応を可能とした。授業評価アンケートでは見えてこない、学修環境を整えることや、問題に対して迅速に対応することができ、授業時間外での学生の研究や課題への取り組みが向上したと見受けることができた。 ・委員を通じた各委員会との情報共有を行うことで、専攻としての意見や方針をまとめることができた。
	2	授業評価アンケートの実施	受講生の理解度及び学修状況の確認と、授業における改善点を把握するため授業評価アンケートを実施した。	・受講生の授業理解度の確認。 ・学修状況、受講生の取り組みを確認。 ・授業における問題点の把握と改善に役立てる。 ・授業の実施方法及び進捗の確認（アクティブラーニングの実施など）。 ・匿名で実施するため、授業内では把握することが難しい、学生の小さな声にも寄り添い、充実した授業を展開させること。	・実技及び関連科目に対して授業評価アンケートを実施した。2024年度は全体を通して、回収率が向上し、学生の小さな意見も拾い上げることができた。常勤、非常勤を問わず、授業内容の充実に貢献することができた。今後は、さらに各授業担当教員や授業支援スタッフの協力を得て、さらなる回収率の向上に努める。 ・すくには対応できないような、施設や設備に関する指摘も見受けられたが、授業の実施方法を検討することで、より良い授業を実施できるように努める。
	3	グループウェア（teams）の活用による学生・教員間のコミュニケーションの円滑化	スタッフ、教員、学生間で、運営上必要な情報の共有や個別の伝達事項など、グループウェアで一元化して行っている。	・一対多や一対一など、伝達や共有内容に沿ったコミュニケーションを円滑に行うため。 ・授業資料の共有や参考資料などへのアクセシビリティの向上と、資料の保存に役立てるため。 ・要件ごとにチャネルを分割することで、担当するタスクを明確にし、業務の混乱を避けることができる。	・報告、連絡、相談など、教員及び学生との情報共有における時間的コストを大幅に下げることができた。またグループを利用した連絡では、関係各位に対して一斉にアナウンスできるため、情報共有や周知に有用だった。 ・個別の連絡だけではなく、展覧会情報、コンペ情報、就職活動に関する情報など様々な要件ごとにチャネルを分離し、目的を明確にした上で発信することができた。また、対面の授業時間内では足りない個別のフォローが、チャットの活用によってより具体的に丁寧に行うことができ、学生の授業理解度を高めることができた。
	4	学生別の成績開示	科目を構成する各課題の評価について、学生が具体的に知る機会がないため、課題ごとを個別に成績としてまとめ、学生に開示した。	学生が、これまでの制作、課題に対して、客観的な評価を知ることができる。 評価を知ること、学生自身の問題点や課題を発見し、今後の発展的な取り組みを期待することができる。	・個別の評価を知ることができ、学生からは、とても参考になるという声が聞かれた。評価を知ることにより、教員とのコミュニケーションも活性化し、新たな課題への取り組みと、授業理解度及び習熟度、主体性のある積極的な取り組みの向上へとつながった。
	5	3年生学外展示	長久手文化の家との連携事業の一環として、3年生の年次制作展を長久手文化の家で発表した。展覧会の計画から実施までの全てを学生が主体となり取り組んだ。	・作品を作るだけでなく、発表し、見てもらうこと、そして鑑賞を通じて得たフィードバックを今後の制作に活かすことを目的とした。 ・計画、設置、広報、デザイン、記録、当日運営など、作品発表に関わる一連のワークフローを実際の現場から学ぶ。	これまでの授業は、制作が中心であり、最終的に誰に、どのように届けるのかという発表に関わる部分を、大学内の授業で実施することは難しかった。学外の施設と連携し、実際の展覧会として発表することで、作ったものを届け、作品を見せるという意識を与えることができた。作品の配置、説明文、観客の動線、展示に関わる配線、設置、照明など、作品の周りに点に至る重要な要素について、展覧会を開催するという実践的な取り組みによって学ぶことができた。

音 楽 学 部 ・ 音 楽 研 究 科

音楽				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
作曲	1 コース部会の実施	構成員は常勤4名の教員。議題は提出作品審査、イベント関係(特別講座や作曲作品演奏会等)、入試問題作成(楽典、ソルフェージュ等)、カリキュラムの検討など。原則隔週として、火曜日の13時より、1時間30分程度。FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 ①レッスン、およびクラス授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 ②学生の受講姿勢についての確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 ③関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 ④学生の生活上の問題、所属クラスに関する課題について検討を行う。	「専任教員全員が全学生を担当する」という本学作曲コースのポリシーの下、学生の受講状況を把握し、意欲の向上、カリキュラム実施状況等の確認を行い、出来る限り専任教員全員が全学生の状況を把握できるようにする。	今年度は臨時部会も含めて23回実施した。厳しい予算の中、どのような体験や学習を学生に提供できるか、在籍する学生のメンタルに応じた学習、生活指導などについて状況報告を特に念入りに行った。また学生の評価方法についてより客観的で適正な指標を決め、それに基づいた評価を行った。
	2 学生向けイベントの実施	「特別講座」および「作曲作品演奏会」を定例行事として行う。また機会があれば随時臨時イベントも開催する。	学生への啓発、学外や地域への貢献。	12月9日にヨーテボリより現代音楽アンサンブルCurious Chamber Playersを招聘し、作曲作品演奏会を開催した。また全日には公開リハーサルおよびワークショップも開催した。1月27日に調律師の三ヶ田美智子氏を招聘し、ピアノの管理や拡張張法に関する特別講座を開催した。
	3 授業評価アンケートの実施	前期後期の終わりに支持された方法で学生に授業評価アンケートを実施した。	学生の事業に対する感想・要望を客観的に聞き、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行うため。	授業内容についてはおおむね問題なく受け入れられていることを確認した。
	4 シンポジウムの開催	日本ソルフェージュ研究協議会のシンポジウムを本学で開催した。	ソルフェージュ教育の向上および互い学との情報交換。	2月20日に日本ソルフェージュ研究協議会のシンポジウムを本学で開催し、ソルフェージュ教育に関するレクチャーやシンポジウムを開催した。なおこのイベントは本学はもとより中部地区で初の開催であった。本シンポジウムでは本学のソルフェージュ教育に対しての質問や感想などを数多く受け取ることができ、本学のソルフェージュ教育に対する大きな関心を感じることができた。大変意義深いハートウォーミングな会となった。
音楽学	1 コース部会の実施	原則として、毎週月曜日の授業後にコース部会を行なっている。必要に応じて、メールでの会議も行っている。	学生・院生や授業、各委員会に関して情報交換を行い、コース内や学内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の修学状況について情報を共有し、指導方法を見直したり、環境を改善したり(音楽学演習室のPC関連設備の更新など)することができた。2026年度の音楽学部カリキュラム改正に向けては、新設科目「アカデミック・リーディング」の開講方法について検討するとともに、博士前期課程の修士論文系科目の課題について議論を進めた。
	2 アンケート(授業評価アンケートほか)の実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほか、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを実施している科目がある。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	アンケートの結果から、教員(非常勤講師含む)の授業準備・指導の工夫が学生からも評価されていることが分かった。一方で、「西洋音楽史概説」「音楽学概説」のように多専攻が受講する授業では、学生の修学環境や理解度に応じて資料展開、授業の進め方などに改善の余地があることも分かっている。すでに改善されている点もあるが、引き続きより質の高い授業実施のため改善を図る。
	3 音楽学コロキウムの実施	この授業は、学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設されたもので、2021年度までは「音楽学総合ゼミ」として実施していたが、2022年度より「音楽学コロキウム」に改編された。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生・院生による研究発表、ゲストスピーカーによる研究発表から成る授業である。音楽学コースの学部1年生から大学院博士後期課程の博士論文提出の準備をしている者までの学生、院生全員と教員全員が参加する。	多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	2024年度は学生・院生による複数回の研究発表のほか、招聘講座を3回(井上さつき名誉教授「1903年第5回国内動物博覧会カナダ館のピアノ」、小林英樹名誉教授「ゴッホと向き合い直す(ゴッホ再発見)Ⅰ」「ゴッホと向き合い直す(ゴッホ再発見)Ⅱ」)が行われた。図書館によるデータベース講習会もまた、音楽学コロキウムの枠組みの中で実施した。
	4 複数の教員による論文指導	音楽学を専攻する学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	卒業論文2本、修士論文3本が提出された。
	5 コース紀要の刊行	『愛知県立芸術大学音楽学部音楽学コース紀要:ミクスト・ミュージック』を2006年から刊行し、教員(非常勤講師含む)、大学院生の研究論文、それらに加えて、刊行当該年度の卒業論文、修士論文、博士論文の題目と要旨、音楽学コロキウムおよび特別講座の概要を掲載している。	大学院生、音楽学コース教員(非常勤講師含む)の研究結果、学生の学業の成果を広く知らせるため。	『ミクスト・ミュージック』第20号を刊行した。この号では、教員による論文2本、書籍紹介1本、20号記念特集、各種報告3本、卒業論文・修士論文の要旨5本分を掲載した。学位論文の要旨を掲載することは学生にとって励みになると同時に、下級生が研究対象を決める際の参考にもなり、外部に対しては音楽学コースの広報活動にもなっている。
	6 特別講座の開催	特別講座を開催し、公開している。	学生にすぐれたゲストスピーカーによる最先端の知や芸術の世界に触れてもらうため。	2024年度はメディア文化論、ジェンダー研究、カルチュラル・スタディーズを専門とする田中東子氏(東京大学大学院教授)をお招きして講座を実施した。テーマは『「オタク文化とフェミニズム」を通じて考える～研究への昇華法』であった。
声楽	1 専攻部会の開催	毎月2～3回、1回あたり2時間半程度実施。参加者は専任教員6名。主な議題は以下のとおり。 1. 各種委員会より依頼のあった懸念事項の検討 2. 新任教員の採用 3. 専攻内での懸念事項の検討 4. 専攻の授業と行事の実施に関する事項の検討 5. 個々の学生に関する情報の共有と対応 継続審議中である1.2年生を対象とする「アンサンブル特講」の活用等、カリキュラム改定に合わせて見直しを含めた検討を行っている。	・大学および専攻の運営に関わる問題を審議し、声楽専攻としての方針を決定する。 ・学生の受講状況を把握し、学習意欲の向上、カリキュラム実施状況の確認を行い、学生の状況、教員の状況を把握できるようにする。 ・個々の学生に関する情報を部会内で共有し、対応が必要な場合にはこれを速やかに、きめ細かく行う。	およそ各月2回開催した。前半は、特に新任採用についての検討協議を行った。また、さまざまな課題を抱える学生についての問題を部会で共有し、問題解決のため担当する非常勤講師への情報共有をお願いをした。一方、魅力あるクラス授業の新設に向けて、授業内容の協議をはじめている。
	2 授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業を中心に授業評価アンケートを実施。	学生から評価・意見を参考にし、授業内容から施設設備まで、授業全般に関わる改善を行う。	概ね学生たちは積極的に取り組んだと回答しており、授業の内容にも関心や意欲が高まったとの回答も多く専門性の能力向上に役立ったという意見も多く見られた。後期のアンケート回収率が課題であるため回収率を上げるため学生に促していきたい。
	3 舞台美術会議の実施(学内外のコラボレーション)	大学オペラ公演に向けて、大学院「オペラ総合演習」担当教員(専任2名、演出担当非常勤講師)ならびに舞台美術担当教員(美術学部教員)、外部関係者による会議を実施。 ●大学オペラ公演の公演方針 ●公演形態 ●具体的な舞台の見取り図を踏まえ、舞台美術プランを決定	●安心安全な公演にする。 ●舞台美術のアイデアを具体的ななかたちにしていくこと、かつ演出上の諸問題を舞台上の道具配置等の検討により解決していく。	今回は、2008年以来となるモーツァルトの傑作である『フィガロの結婚』に取り組み、舞台美術のアイデアとして「企み」「騙し合い」というテーマをもとにトランプゲームでの駆け引きを表現した舞台を作り上げた。カジノ風の舞台、衣装は作品にアクセントを与え、素晴らしい舞台を作り上げたことができた。実際に出演した学生だけでなくお客様からもこれまでにない評価をいただくことができた。
	4 舞台衣装制作での協力(他大学とのコラボレーション)	学部4年「オペラ研究」において、名古屋学芸大学メディア造形学部ファッション造形学科と協力、学芸大学の学生は舞台衣装を制作し、本学学生はその衣装を着て試演会の上演を実施。 双方の大学の学生たちが、衣装合わせや採寸時、演出、歌手、衣装製作側がお互いに意見交換をし、歌唱時に動きやすく、歌いやすく、かつ演出効果、舞台効果を上げる衣装づくりを目指した。	二大学間での協力により、双方の授業での成果発表の場とする	大学オペラと同じ演出であるモーツァルトの『フィガロの結婚』実施した。恒例となっている2大学大学協力のもと実践的な授業を行なうことが出来、またオペラの内容に沿った衣装作りや、本格的な衣装を着ての歌唱など、素晴らしい試演会を行なうことが出来た。学生たちの意欲が高く、照明などの演出効果にもこだわり素晴らしい舞台を作り上げることができた。ご来場いただいたお客様からも好評を得ることができた。
	5 特別講座の実施	年1回特別講座を実施。学内外の講師によって、演奏会、講演、公開レッスン等を行う。本年度は1月16日に室内楽ホールにて、本学非常勤講師であり国内外で活躍している小泉詠子先生とカタルニャ高等音楽院で教鞭を取られているジョルディ・バロマス先生による特別講座を実施。 前半は、小泉先生とバロマス先生のスペイン歌曲のコンサート、後半では、小泉先生にトークセッションとして演奏家におけるキャリア形成についてのお話を学生との対談も含めて実施した。	国内外で活躍する現役歌手の演奏と、その体験談を聴き、学生たちの今後に役立てる。	国内外で活躍しておられるメソソプラノの小泉詠子先生と指揮者としても活躍されているジョルディ・バロマス先生のスペイン歌曲の世界は、とても素晴らしい学生や一般のお客様からも大変好評を得ることができた。 また、学生にとって関心の高いキャリア形成のお話については、小泉先生の実体験を含めコンクールやイタリア留学、プロダクションとの契約についてなど具体的に伺うことができ、学生との質疑応答も大いに盛り上がった。大変有意義な特別講座を実施することができた。
ピアノ	1 コース部会	定期的な開催されるピアノコース部会にて、根本的な価値観や教育目標について常に議論・共有し、それに基づき、コースが開設している各種授業に関する率直な把握や点検、課題分析等を、不断に行っている。	学生や受験生の状況および現代社会における幅広いニーズ等に機敏に対応しつつも、同時にコースとしての根本的な教育研究目標や芸術的価値を第一に追及していく姿勢は堅持し、両者の調和を図り、時代に真の価値を育むコースとして発展していくこと。	「目的」に述べた内容に即し、良いものは受け継ぎ、変革すべき点では新たな試みを行い、ピアノコースにおける教育活動はよりきめ細やかで充実したものになりつつあると評価している。
	2 特別講座開催	ウィーン国立音楽大学名誉教授、ミハエル・クリスト氏を招き、学部から一人、大学院から一人の計2名をモデル学生に、公開レッスンを開催した。(2024年5月)	海外の優れた音楽家の指導や行まいに直接接することにより、学生の意識と視野を広げ、また豊かな感性を涵養すること。	素晴らしいマスタークラスとなり、学生からも得難い刺激となったと好評で、有意義な講座となった。
	3 授業評価アンケート	「ピアノ合奏」、「ピアノ指導法」、「楽器研究ⅠⅡ」について実施した。	多くのピアノコース学生が履修する科目において、コース学生の意識や現状を的確に把握分析し、今後の授業改善に役立てること。	授業への取り組みや満足度について肯定的評価はかなり強いと判断でき、良い結果であったが、改善を促す細かい指摘等もあり、その点は今後の課題である。
	4 演奏機会の創出	ピアノコース独自の「新進演奏家コンサート」、「愛知県立芸術大学学生によるピアノコンサート」を企画、運営、開催した。	優秀なコース学生に学外での自由な演奏機会を提供することにより、さらに効果的な教育研究を実現し、またモチベーションの増進等を図ること。	学外ホールでの演奏経験は、出演学生にとって非常に貴重な、また今後の成長を促すものとなった。同時に、ピアノコースの教育研究を地域社会に還元する、重要な社会連携の場となっている。

弦 楽 器	1	コース部会の開催	教員間の情報共有や授業改善、各種委員会からの報告など、月1回ないし2回の回数部会を行った。更に、メールでも頻繁に連絡を取り合い、授業スケジュールの分担、学生の様子の共有、授業を円滑に進めるための意見交換を常に行っている。	専任教員5名が、全学生の勉学・生活の両面について現状を把握できるようにする。	情報共有し、必要に応じて学生の相談に応じる等、全教員が一丸となり、精神面もあわせてケアをしながら指導にあたっている。特にアンサンブル系の授業では、精神的不安をかえる学生もいるので、心地よい空気感のもと、音楽することに集中できる学習環境づくりを大事にしている。
	2	授業評価アンケートの実施	前期ならびに後期の終わりに、クラス授業、レッスンなどの授業を中心に、授業アンケートを実施。	学生からの意見・評価を参考にして、授業全般に関わる取組方針の方向性を検討し、より良い形を模索する。	アンケート実施を呼び掛けて、多くの学生の意見集約を試みたものの、総数が前期後期とも少なめだったのが大変残念。授業に関する意見は良好なものが多かったが、設備改善に関する要求も散見された。
	3	外国人客員教授の招聘	令和6年度も、引き続き外国人客員教授としてF.アゴ스티ーニ氏（Vn）にご指導いただき、弦楽器専任教員を中心としたアンサンブル演奏会でも共演いただいた。 2025年3月20日 「室内楽の管演Ⅱ Vol.1」（宗次ホール）	ヨーロッパとアメリカで学び、元・ムジチ合奏団コンサートマスターとして、クラシック音楽界の第一線で長年活躍しているヴァイオリニストから直々にレッスンを受け、豊かで個性的に主張できる音楽性を身に付ける。また、言語面においても、英語を日常的に使用しながらレッスンを受講することで、語学力向上を促す。受講方法は、専任教員と外国人客員教授のレッスンを半分ずつ受けられる、ダブルレッスン方式を採用している。	左記演奏会は大変好評であった。その他にもチェロのルドヴィード・カンタ非常勤講師によるチェロの公開レッスンを行った。
	4	アーティストレジデンス2024招聘	令和6年度は、スイスのチューリッヒ・トーンハレ管弦楽団コンサートマスターでチューリッヒ芸術大学ヴァイオリン科教授のアンドレアス・純・ヤンケ氏をお迎えした。（2024.10） ヴァイオリン実技の公開レッスン、室内楽（ピアノリオ）の公開レッスン、第57回音楽学部学部定期演奏会ではモーツァルトの協奏交響曲を熱演。教員との室内楽コンサートではブルッフの八重奏曲はじめ、いずれも大変素晴らしい演奏となった。	ヨーロッパの一流オーケストラと大学とで実際に働いている方から、様々なアンサンブルを通じて学ぶチャンスを得る。彼は幼少期に日本語も十分に話していたので、言葉の面での壁はなく、学生も質問など気軽にできる。	学生だけでなく教員もたくさんのマスタークラスやアンサンブルのリハーサルから、学ぶ点が多々あった。 お人柄も大変素晴らしい。音楽にもそんな性格が反映されている雄大でスケールの大きい音楽が大変魅力的であった。
	5	個人レッスン実技試験 室内楽試験 修了演奏	弦楽器コースでは、入学時及び学年末に、師事したい教員の希望をとった上で担当教員を決定し、週1回マンツーマンによる丁寧な指導を行っている。演奏による試験は、専攻実技及び室内楽を前・後期各1回ずつ行っており、外国人客員教授を含む、弦楽器コース専任教員全員と多数の非常勤講師がともに学生の演奏を聴き、採点をを行う。試験は公開で行われる。その利点として、試験官以外に多数の学生（聴衆）がいる前で演奏すること、より緊張感ある舞台を想定することができる点、他の学生の演奏を聴くことで多くを学べる点などが挙げられる。	楽曲の習熟度をどこまで挙げられるか、個人個人に働いている方から、様々なアンサンブルを通じて学ぶチャンスを得る。彼は幼少期に日本語も十分に話していたので、言葉の面での壁はなく、学生も質問など気軽にできる。	入学試験時から卒業・修了まで、学生一人一人が成長していく様子を弦楽器専任教員全員で見守り、伸び悩む学生に関しては、担当でなくとも必要に応じて助言や指導を行っている。教員全員が各学生の名前や性格、演奏スタイルを把握できているのは、規模の大きすぎない本学ならではの利点である。
	6	アンサンブル系授業	「室内楽」「弦楽合奏」「オーケストラ」等のアンサンブル授業においては、効果的に授業を行うため、下記のような体制で指導を行っている。 「室内楽」 学部では、1グループを教員1名ないし2名が通年でレッスンを担当し、じっくりと細密なレッスン指導にあたっている。アンサンブルの基礎を学べる形態をとっている。 修士課程においては、「室内楽1」「室内楽2」が開講。室内楽2は全領域の教員の中から師事したい教員を学生から指名し、レッスンを受けることができる画期的なカリキュラムになっている。 「弦楽合奏」 室内楽より大きな編成のアンサンブルで、一人一人の協調性がアンサンブルの軸となる。コンサートマスターを務める学生を中心にボーイング決めや各首席とのやりとりを通じ、指揮者の意図を汲み取った演奏をできるよう鍛錬する。 「オーケストラ」 国内外の第一線で活躍する指揮者のもとで行われる、プロオーケストラ同様のリハーサルが授業の基本。そこに経験豊かな教員がスタッフとして指導に加わっている。	複数の先生や学生との様々な意見の交換から、自分も考ええぬやり方、方向性を知ることで、変化への対応力が取れるようになる。また、自ら発信してアンサンブルの変化を奏しむ余裕ができるくらい曲を熟知して演奏できるようになるのが望ましい。	「オーケストラ」では、日本を代表する指揮者・秋山和慶氏を定期演奏会にお迎えして、正確なタクトからアンサンブル能力向上のための厳密なリハーサルを丹念におこなっていただいた。「弦楽合奏」では、多くの学生にソロの担当がまわってくる。パルチーノのような難しい楽曲にも根気強く果敢に取り組み、素晴らしい演奏会となった。今年度は弦楽合奏の発表の場が、2回あり、いつも以上に発表の場が多く、演奏会に未場される客数も好調であった。 「室内楽」 2025.2.24 室内楽の夕べ（電気文化会館ザ・コンサートホール） 「弦楽合奏」 2024.12.21 第19回弦楽合奏定期（長久手市文化の家） 2025.1.15（豊田市コンサートホール） 「オーケストラ」 2024.6.22オーケストラ特別演奏会（岐阜サランカホール） 2024.7.5 小中学生思い出コンサート（みよし市） 2024.11.17オーケストラ定期演奏会（愛知県芸術劇場コンサートホール）
管 打 楽 器	7	愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団 その他	2025.3.20にヴァイオリン福本泰之教授プロデュースのレクチャーコンサート、室内楽の管演Ⅱ演奏会を開催。NHK交響楽団から16首席の村上淳一郎氏、外国人客員教授のアゴスティーニ先生らをゲストに招き、専任教員5名を中心として、アンサンブルを編成。宗次ホールでの開催で修先生に演奏曲目のレクチャーをお願いしながらのレクチャーコンサートとなった。素晴らしい響きのホールとメンバーひとりひとりの情熱が交錯して、大変素晴らしい演奏会となった。	教員が音楽に取り組む姿勢や、様々な角度から学生に示す。厳密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を間近で見せることにより、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対する意識を学生に伝えることができる。	これらの活動により、教員と学生間はもちろん、教員同士でも互いに刺激を受け合い、音楽界の情報交換もできるうえ、広義的な意味で授業での指導力向上につながっている。
	1	管打楽器コース部会	定期的に管打楽器部会を開催しています。開催日時はその都度異なりますが、水曜日の13時から14時30分まで行うことが多いです。 部会では、主に以下のような活動を行っています： 各委員会からの情報共有や、部会全体での意見交換を行います。 オーケストラやウィンドオーケストラの出演者を決定する際には、本管楽器・金管楽器・打楽器などの学生のレベルや相性を考慮します。 学業や生活において苦労している学生に対し、面談を実施します。 管打楽器コース主催のイベントを毎年開催しています。これらのイベントは、若い音楽家の育成と愛知県民との交流を目的としており、日進市教育委員会と連携して、3年連続でコンサートをプロデュースして、今年度から名工大コラボレーションをしています。また、学生の学びを深めるために、毎年「芸術講座」も開催しており、これらの企画はすべて部会で立案しています。	コース内の円滑なコミュニケーションを図るため、私たちは定期的に部会を開催しています。互いの意見を尊重し合い、自由に考えや思いを共有できるような、風通しの良い環境づくりを目的としています。	毎週さまざまな課題が生じますが、コース専任の5名の教員が力を合わせることで、うまく運営できていると感じています。
	2	非常勤講師、コマ数、カリキュラム	非常勤講師に割り当てられる授業コマ数は年度によって変動があり、限られたコマ数を毎年バランスよく配分することに大きな努力を要しています。管打楽器コースには12種類の専攻楽器があり、それぞれの実技レッスンは専門の指導者が必要です。さらに、ウィンドオーケストラの指揮者や室内楽のトレーナーとしても、非常勤講師の力を借りています。	非常勤講師のコマ数が毎年変動する中で、限られたリソースを有効に活用し、管打楽器コースの高い教育水準を維持することが重要な課題となっています。	毎年変動する限られた非常勤講師のコマ数を効率的に分配することは容易ではありません。しかし、5名の専任教員がそれぞれの負担を引き受け、部会で慎重に協議を重ねることにより、コース内の学生に対して高い教育水準を維持できていると考えています。
	3	卒業、修了後の進路に関して	卒業を控えた4年生と修了を控えた大学院2年生の進路を把握するため、全員と面談を実施しています。音楽大学に進学し、プロの楽団に入団することを目指す学生は多いですが、実際にオーディションに合格できる学生は限られています。学生の目標と現在の実力を踏まえ、共に進路計画を立てていくことが重要です。音楽大学に進学し、プロ楽団に入団することを目指す学生は多いが、実際に入団オーディションに成功できる人は限られている。学生の目標と現在のレベルを考慮し、一緒に進路の計画を立てる。	卒業生が全員進出し続けている現在の音楽業界で成功するためには、一人一人に最適な道を見つけることが求められます。それぞれの強みや個性を活かし、個別の進路をしっかりとサポートすることが重要です。	学生のレベルや将来の目標は一人一人異なりますが、できる限り全員が自分の将来に向けたマスタープランを作成できるようサポートします。
	4	アンケートの実地	学年の始めに、管打楽器コースでは新入生全員と面談を行い、出身地や愛知での居住地、毎日の通学手段について質問します。これにより、各学生の背景を理解することができず。また、才能ある受験生を引き付けるために、愛知県立芸術大学を選んだ理由や、大学の魅力的な点や改善点についても尋ねます。最後に、大学生活に関して特別な懸念がないかを確認します。別な懸念がないかを確認します。 毎年、修了を迎える大学院生にアンケートを実施しています。学部の4年間と大学院の2年間の経験について尋ね、学生が良かったと思った点や教員へのアドバイスを収集し、教育体制の調整に役立ちます。また、外部から入学した学生には、本校と学部卒業後の大学との違いについて尋ね、県営や管打楽器コースを他の大学と比較してどう感じているかを確認します。 授業アンケートの結果をもとに、授業内容を再検討したり、学生の意見を反映して微調整を行ったりします。アンケートで最も多いコメントは設備に関する苦情です。 学年に関係なく、学生が困っていると感じた場合には、声をかけて個別に話をするようにしています。	学生の視点から見て、管打楽器コースの良い点と改善すべき点を知ることは非常に重要です。学生が実際に感じていることを把握することで、教育環境やカリキュラムの改善に繋げることができます。定期的な面談を通して、学生がどのような点に満足しているのか、またどの点に課題を感じているのかを明確にし、そのフィードバックを基にコースの強化に役立てることが求められます。	アンケート調査の結果をもとに、学生の不安や安心感をしっかりと理解し、適切に対応できたことに自信を持っています。学生の声を反映させることで、より良い学びの環境を提供できるよう努めており、その成果が感じられることは大きな励みとなっています。

教 養 教 育 科 目

教養				
専攻 コース	項目	概要	目的	結果
教 養	1 教養等会議	毎月教養等の教員が集まり会議をしている。また、メール等で審議などをする場合もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学および教養等教育の運営に関わる事項の審議および情報共有 ・学生指導に関する情報共有 ・授業に関する情報共有 ・その他教養教育等にかかわる内容についての検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養等教育に関わる運営について大きな問題なく運営することができた。 ・教養教育、特に語学教育に関する目的や意義について、意見交換を交わしその重要性について共有することができた。 ・今後の教養教育の在り方について検討をしたが、全学教育に影響することもあり、今後丁寧な議論が必要であることが合意された。 ・学生に関する情報交換(気になる学生に関する対応について)をすることができた。 ・学生の日本語力(論文作成能力)の向上に関連して、各講義におけるレポート提出についての情報共有をすることができた。 ・非常勤講師の授業に関してその改善に関わる情報共有ができた。
	2 授業評価アンケート	多くの講義系科目で、学生の授業評価アンケートを実施し、その結果を踏まえ、改善策を検討する。	・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の授業が肯定的な評価を受けていることが確認することができた。 ・気になる自由記述のあった非常勤講師に対しては、担当の教員が個別で対応し改善を図ることとなった。 ・アンケートの回収率が低い講義が複数あることから、回収率を高める工夫が必要であることが分かった。今後、その方策について検討したい。
	3 各教員の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・公式の授業評価アンケート以外において、アンケートを定期的に実施する。 ・個別の学生との対話 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな授業実践の改善に向けた評価と指導の一体化 ・個別最適な学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養科目において、大学の授業評価アンケートとは別にアンケートを実施し、教職課程全般の強みや問題点を把握することに努めることができた。今後、毎年実施することで、学生の学習に対する意欲や理解度を経年的に把握していく予定である。 ・例えば語学教育に関して、留学に関心のある学生に対して適切な情報提供や助言を与えたり、卒論や研究の相談に乗ったりすることができた。

第 2 章 授業評価アンケート

令和6年度 授業評価アンケート

1. はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（FD）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。

平成21年度から、FD委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の2種類のアンケートで実施しています。

この2種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

2. アンケートの実施

前期と後期の年2回実施をしました。

前期は、令和6年7月15日（月）から8月9日（金）の3週間、後期は令和7年1月20日（月）から2月14日（金）の4週間（および予備日として2月17日（月）から2月19日（金）の3日間）の期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、大学の教育支援ポータルサイト UNNIVERSAL PASSPORT の授業評価機能にて実施し、学生が自由に回答できるように配慮しています。

実施対象の授業ですが、昨年度と同様に履修登録者5名（講義系授業は10名）以下を除く授業からFD委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択し実施しました。

実施方法は、FD委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

3. アンケートの報告

アンケートは実施後、学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。集計は、回答者全員分の集計結果を本学FD委員に配付し、本学専任教員は、集計結果をもとにFD報告書にて専攻の授業評価アンケート全体の報告を作成しています。

4. 自己点検結果報告シート

授業評価アンケートの結果を授業担当教員および専攻・コースが確認し、次年度以降の授業改善に生かすというFD活動の流れを明確化することで、よりいっそうの授業改善を促進する狙いで、授業評価アンケートを行った科目の一部で授業科目ごとの「自己点検結果報告シート」の作成を実施しました。

自己点検結果報告シートの内容はFD委員会において確認し次年度以降の授業改善に生かすとともに、FD活動の記録として次年度以降のFD活動報告書の一部として外部への公開を検討しております。

(テンプレート)

差出人：学務課

授業評価アンケート（講義）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
履修している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を保った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様ですので、回答者が特定されるような記述は控えた上で、より良い授業となるよう、率直なご意見をお寄せください。

あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

選択必須

- ☐ 100%
- ☐ 90%くらい
- ☐ 80%くらい
- ☐ 70%くらい
- ☐ 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

選択必須

- ☐ ほぼ時間どおり
- ☐ 延長することが多い
- ☐ 開始が遅いことが多い
- ☐ 早く終わることが多い
- ☐ よくわからない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教員は授業をよく準備し、熱心に教えられていると感じられましたが。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：この授業で要望など改善してほしい点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください(無回答可)

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

 回答

(テンプレート)

差出人：学務課

授業評価アンケート（実習）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
履修している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を保った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様ですので、回答者が特定されるような記述は控えた上で、より良い授業となるよう、率直なご意見をお寄せください。

あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

選択必須

- ☐ 100%
- ☐ 90%くらい
- ☐ 80%くらい
- ☐ 70%くらい
- ☐ 60%以下

あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

授業時間は十分だと感じましたか。

選択必須

- ☐ 強くそう思う
- ☐ ややそう思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

選択必須

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教員とコミュニケーションはとれていましたか。

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受けることができましたか。

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

教室・設備については適切でしたか。

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

選択必須

- ☐ 強く思う
- ☐ やや思う
- ☐ どちらともいえない
- ☐ あまりそう思わない
- ☐ まったくそう思わない

自由記述：この授業でよかった点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：この授業で要望など改善してほしい点があれば書いてください。(無回答可)

自由記述：授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください(無回答可)

ご協力ありがとうございました。このアンケートは今後の授業づくりの参考とします。

 回答

2024年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	科目名称	授業名称	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
日本画	日本画実技ⅠA		10	－	－	実習
日本画	日本画実技ⅡA		11	－	－	実習
日本画	日本画実技ⅢA		12	－	－	実習
日本画	日本画実技ⅣA		9	－	－	実習
油画	材料研究(油画)		5	－	－	実習
彫刻	彫刻特別実技Ⅰ		9	－	－	実習
彫刻	彫刻特別実技Ⅱ		8	－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅠA	塑像・石膏取り		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅠA	石実習		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅠA	金実習		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅡA	石彫		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅡA	塑像Ⅱ		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅢA	高橋ゼミ		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅢA	森北ゼミ		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅢA	葉栗ゼミ		－	－	実習
彫刻	彫刻実技ⅣA		9	－	－	実習
芸術学	西洋美術史概説A		68	水曜日	4	講義
芸術学	現代アート概説A		77	水曜日	5	講義
芸術学	現代アート論特講Ⅱ			水曜日	3	講義
芸術学	美学A		82	月曜日	3	講義
芸術学	美学特講Ⅱ		13	月曜日	5	講義
芸術学	日本美術史特講Ⅰ		31	月曜日	4	講義
芸術学	東洋美術史特講Ⅱ		32	木曜日	3	講義
芸術学	芸術学総合研究Ⅰ		5	月曜日	2	実習
芸術学	芸術学総合研究Ⅱ		6	月曜日	2	実習
芸術学	芸術学総合研究Ⅲ		5	月曜日	2	実習
芸術学	日本美術史研究Ⅴ		7	火曜日	3	実習
芸術学	芸術学基礎実技ⅠA		5	－	－	実習
芸術学	芸術学基礎実技ⅡA		6	－	－	実習
芸術学	日本美術史概説A		74	火曜日	4	講義
博物館	博物館概論		13	水曜日	5	講義
博物館	博物館資料論		15	火曜日	3	講義
博物館	博物館情報・メディア論		13	水曜日	3	講義
博物館	博物館教育論		8	木曜日	4・5	講義
博物館	考古学		13	木曜日	3	講義
デザイン	デザイン・工芸論A		46	金曜日	3	講義
デザイン	デザイン特講Ⅰ		25	－	－	講義
デザイン	デザイン特講Ⅱ		23	－	－	講義
デザイン	デザイン実技ⅢA		7	－	－	実習
デザイン	デザイン実技ⅣA		24	－	－	実習
デザイン	デザイン基礎実技A		25	金曜日	4	実習
デザイン	デザイン実技ⅡA		24	－	－	実習
デザイン	デザイン実技ⅢA		23	－	－	実習
デザイン	デザイン基礎ゼミA	(隔週)	21	金曜日	4	実習
デザイン・大学院	デザイン研究論A		7	水曜日	3	実習
デザイン・大学院	デザイン理論研究Ⅰ		7	－	－	実習
デザイン・大学院	デザイン理論研究Ⅲ		6	－	－	実習
陶磁	陶磁原料学Ⅲ		10	月曜日	4	講義
陶磁	陶磁史ⅠA		10	木曜日	4	講義
陶磁	陶磁論A		10	金曜日	3	講義
陶磁	陶磁特別実技Ⅱ		10	－	－	実習
陶磁	陶磁実技ⅠA		10	－	－	実習
陶磁	陶磁実技ⅡA		9	－	－	実習
陶磁・大学院	陶磁理論研究Ⅰ		9	－	－	実習
メディア	メディア映像基礎実技A		10	－	－	実習
メディア	メディア映像実技ⅡA		12	－	－	実習
メディア	メディア映像特講		7	水曜日	3・4	講義
メディア	メディア映像演習B		11	月曜日	4	実習
メディア	メディア映像演習D		7	火曜日	3	実習
関連	デザイン史A	(隔週・奇数週)	23	金曜日	4	講義
関連	図学/図学及び遠近法		60	木曜日	5	講義
関連	美術解剖学	(隔週・偶数週)	75	金曜日	3	講義

2024年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	科目名称	授業名称	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲	和声ⅠA		16	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠA		20	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠA		16	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠA		18	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠA		16	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅡA		23	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡA		18	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡA		15	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡA		17	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡA		19	火曜日	2	実習
作曲	キーボードハーモニーA		32	火曜日	2	実習
作曲	楽曲研究A		23	水曜日	2	実習
作曲	ソルフェージュA	(前期)	91	月曜日	1	実習
作曲	ソルフェージュC	(前期)	82	月曜日	1	実習
作曲	楽式論A		25	水曜日	4	講義
作曲	楽式論A		15	水曜日	5	講義
作曲	楽式論A		20	水曜日	3	講義
作曲	対位法A		13	火曜日	4	講義
作曲	対位法A		16	火曜日	4	講義
作曲	対位法A		25	火曜日	4	講義
作曲	コンピュータ音楽A		15	火曜日	1	講義
音楽学	西洋音楽史概説A		99	火曜日	3	講義
音楽学	音楽学概説		88	火曜日	5	講義
音楽学	楽書講読(英)ⅠA/ⅡA		21	水曜日	4	講義
音楽学	音楽史特講b		36	金曜日	1	講義
音楽学	音楽特講b		11	水曜日	2	講義
音楽学・大学院	音楽学基礎演習		21	火曜日	4	講義
音楽学・大学院	アート・マネジメント 1	(1回目)、(2回目)	12	水曜日	3	実習
音楽学・大学院	特殊研究(音楽学領域25)		15	火曜日	5	実習
声楽	音楽芸術言語(伊語)ⅠA		11	火曜日	2	講義
声楽	オペラ重唱A		29	火曜日	3	実習
声楽	合唱ⅠA～ⅢA	(女)	27	金曜日	5	実習
声楽	声楽A		60	-	-	実習
声楽・大学院	重唱	(1回目)、(2回目)	8	金曜日	3	実習
声楽・大学院	特殊研究(声楽領域27)		9	火曜日	4	実習
ピアノ	ピアノ合奏A		23	-	-	実習
ピアノ	ピアノ指導法A		19	火曜日	3	実習
ピアノ	楽器研究(鍵盤楽器)ⅠA・ⅡA		16	月曜日	1	実習
弦	弦楽器奏法の研究ⅠA		8	-	-	実習
弦	弦楽器奏法の研究ⅡA		10	-	-	実習
弦	弦楽器奏法の研究ⅢA		15	-	-	実習
弦	弦楽器奏法の研究ⅣA		12	-	-	実習
弦	弦楽合奏ⅠA～ⅣA、(院)弦楽合奏A		8	水曜日	4.5	実習
弦	室内楽(弦)ⅠA～ⅣA		8	木曜日	1	実習
弦	楽器研究(弦)ⅠA～ⅣA	(ヴァイオリン・ヴィオラ)	6	金曜日	2	実習
弦	楽器研究(弦)ⅠA～ⅣA	(チェロ・コントラバス・ハーブ)	5	金曜日	2	実習
弦	楽器研究(弦)ⅠA～ⅣA(副科)	(ヴァイオリン)	12	金曜日	1	実習
弦	楽器研究(弦)ⅠA～ⅣA(副科)	(チェロ)	12	金曜日	1	実習
弦・大学院	音楽総合研究(弦楽器領域)A	(1回目)、(2回目)	5	-	-	実習
管打	管打楽器奏法の研究ⅠA		20	-	-	実習
管打	管打楽器奏法の研究ⅡA		20	-	-	実習
管打	管打楽器奏法の研究ⅢA		16	-	-	実習
管打	管打楽器奏法の研究ⅣA		19	-	-	実習
管打	管楽合奏/ウインドオーケストラⅠA～ⅣA、(院)管楽合奏A		20	水曜日	4	実習
管打	管打学基礎ⅠA		20	金曜日	2	実習
管打	管打学基礎ⅡA		20	金曜日	2	実習
管打	合奏A		26	木曜日	3	実習
管打	楽器研究(管打)ⅠA～ⅣA		6	木曜日	4	実習
管打	室内楽(管打)ⅠA～ⅣA、(院)室内楽1		20	木曜日	1	実習
管打・大学院	音楽総合研究(管楽器領域)A	(1回目)、(2回目)	5	-	-	実習
管打・大学院	特殊研究(管・打楽器領域21)		8	水曜日	3	実習
弦・管打・大学院	指揮法A	(1回目)、(2回目)	8	金曜日	2	実習

2024年度前期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	合計	曜日	時限	講義/実習
哲学A		138	金曜日	3	講義
外国文学A		63	水曜日	4	講義
西洋史A		39	木曜日	5	講義
日本国憲法	(美術・ピアノ・弦・管打)	84	火曜日	5	講義
心理学A		84	水曜日	5	講義
人類学A		88	木曜日	4	講義
数学A		50	月曜日	5	講義
基礎物理学A		22	火曜日	4	講義
異文化コミュニケーションA		34	月曜日	5	講義
社会学ⅠA		90	木曜日	3	講義
社会学ⅡA		77	木曜日	4	講義
宗教学A		134	金曜日	4	講義
西洋の古典文芸		35	火曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱa		32	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		36	木曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱa		10	火曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱb		29	月曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱb		37	木曜日	4	講義
西洋演劇論		49	水曜日	4	講義
基礎生物学A		30	月曜日	3	講義
英語初級ⅠA		20	月曜日	4	講義
英語初級ⅠA		42	月曜日	3	講義
英語初級ⅠA		29	月曜日	4	講義
英語初級ⅡA		36	水曜日	2	講義
英語初級ⅡA		21	水曜日	3	講義
英語初級ⅡA		21	水曜日	3	講義
英語中級ⅠA		31	月曜日	3	講義
英語中級ⅠA		26	月曜日	4	講義
英語中級ⅠA		19	月曜日	4	講義
英語中級ⅡA		64	水曜日	3	講義
英語中級ⅡA		15	木曜日	3	講義
英語上級ⅠA		16	月曜日	5	講義
英語上級ⅡA		10	木曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅠA		32	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠA		58	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡA		48	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡA		40	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠA		19	火曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		17	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠA		14	木曜日	4	講義
フランス語初級ⅡA		15	水曜日	4	講義
フランス語初級ⅡA		28	水曜日	3	講義
フランス語中級ⅡA		11	水曜日	3	講義
イタリア語初級ⅠA		24	火曜日	4	講義
イタリア語初級ⅠA		19	火曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡA	(音楽)	28	水曜日	2	講義
イタリア語初級ⅡA	(美術)	13	月曜日	3	講義
イタリア語中級ⅠA		19	水曜日	4	講義
イタリア語中級ⅡA		30	水曜日	3	講義
美術科教育法B		26	木曜日	5	講義
音楽科教育法B		54	月曜日	5	講義
道德教育指導論	(美術・声楽)	44	月曜日	3	講義
特別活動論	(美術・ピアノ)	54	木曜日	3	講義
特別活動論	(ピアノ以外の音楽)	51	木曜日	4	講義
教育相談	(ピアノ以外の音楽)	50	月曜日	3	講義
教育原理	(美術・ピアノ)	60	水曜日	5	講義
教育原理	(ピアノ以外の音楽)	46	火曜日	4	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(美術・ピアノ)	60	火曜日	5	講義
教職ICT活用論	(前半/声楽・作曲・音楽学)	29	木曜日	3	講義
教職ICT活用論	(後半/弦・管打)	24	木曜日	3	講義
身体運動演習ⅠA		11	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA		36	木曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA		27	木曜日	3	実習
身体運動演習ⅠA		10	水曜日	5	実習
スポーツ・健康科学A		24	水曜日	4	実習
基本体育A(火5)		21	火曜日	5	実習
基本体育A(火3)		25	火曜日	3	実習
基本体育A(火4)		34	火曜日	4	実習
特殊研究(教養教育21)		5	月曜日	2	実習
特殊研究(教養教育22)		5	水曜日	-	実習

2024年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(美術)

専攻	授業コード	科目名称	授業名称	履修者合計	開講曜日	時限	講義/実技
日本画	37111401	日本画実技ⅠB		10	その他	0	実習
日本画	37111601	日本画実技ⅡB		11	その他	0	実習
日本画	37111801	日本画実技ⅢB		12	その他	0	実習
日本画	37112001	日本画実技ⅣB(卒業制作を含む。)		9	その他	0	実習
日本画・大学院	38530901	修士専門研究(日本画領域)Ⅱ		6	その他	0	実習
油画	37120101	油画実技Ⅰ		27	その他	0	実習
油画	37120201	油画実技Ⅱ		26	その他	0	実習
油画	37120301	油画実技Ⅲ		24	その他	0	実習
油画	37120401	油画実技Ⅳ(卒業制作を含む。)		23	その他	0	実習
油画	37120501	油画特別演習Ⅰ		26	その他	0	実習
油画	37120601	油画特別演習Ⅱ		26	その他	0	実習
油画	37120701	油画特別演習Ⅲ		24	その他	0	実習
油画	37120801	油画特別演習Ⅳ		23	その他	0	実習
油画・大学院	38531201	修士専門研究(油画・版画領域)Ⅱ		13	その他	0	実習
彫刻	37130801	彫刻実技ⅠB	モデリング	10	その他	0	実習
彫刻			木実習	10	その他	0	実習
彫刻			インスタレーション	10	その他	0	実習
彫刻			土実習	10	その他	0	実習
彫刻	37131001	彫刻実技ⅡB	造形	11	その他	0	実習
彫刻			テラコッタ	11	その他	0	実習
彫刻			材料研究	11	その他	0	実習
彫刻			選択ゼミ	10	その他	0	実習
彫刻	37131201	彫刻実技ⅢB	選択ゼミ	10	その他	0	実習
彫刻			選択ゼミ	10	その他	0	実習
彫刻			選択ゼミ	10	その他	0	実習
彫刻	37131401	彫刻実技ⅣB(卒業制作を含む。)		9	その他	0	実習
彫刻	37130501	彫刻特別実技Ⅰ		9	その他	0	実習
彫刻	37130601	彫刻特別実技Ⅱ		8	その他	0	実習
芸術学	34100801	現代アート概説B		71	水曜日	5	講義
芸術学	34200401	西洋音楽史概説B		98	火曜日	3	講義
芸術学	34100401	西洋美術史概説B		62	水曜日	4	講義
芸術学	34100201	日本美術史概説B		75	火曜日	4	講義
芸術学	31000301	美学B		87	月曜日	3	講義
芸術学	37293301	美学特講Ⅲ		18	木曜日	4	講義
芸術学	37143601	芸術学基礎実技ⅠB		5	その他	0	実習
芸術学	37143801	芸術学基礎実技ⅡB		6	その他	0	実習
芸術学	37140101	芸術学総合研究Ⅰ		5	月曜日	2	実習
芸術学	37140201	芸術学総合研究Ⅱ		6	月曜日	2	実習
芸術学	37140301	芸術学総合研究Ⅲ		5	月曜日	2	実習
芸術学	37145001	美学研究Ⅷ		5	火曜日	4	実習
	37291401	文化財学概説					
デザイン	37270201	デザイン・工芸論B		35	金曜日	3	講義
デザイン	37272001	デザイン特講Ⅰ		25	その他	0	講義
デザイン	37272101	デザイン特講Ⅱ		23	その他	0	講義
デザイン	37272301	デザイン基礎ゼミB	(隔週)	11	金曜日	4	実習
デザイン	37271001	デザイン特殊ゼミB		10	金曜日	4	実習
デザイン	37272501	デザイン表現ゼミB	(隔週)	6	金曜日	4	実習
陶磁	37271101	陶磁原料学Ⅲ		10	月曜日	4	講義
陶磁	37280301	陶磁史ⅠB		10	木曜日	4	講義
陶磁	37280601	陶磁論B		10	木曜日	3	講義
陶磁	37160901	陶磁実技ⅠB		10	その他	0	実習
陶磁	37161101	陶磁実技ⅡB		9	その他	0	実習
陶磁	37160701	陶磁特別実技Ⅱ		10	その他	0	実習
陶磁・大学院	38532501	陶磁理論研究Ⅱ		9	その他	0	実習
メディア映像	34201301	メディア映像史		11	金曜日	3	講義
メディア映像	37170901	メディア映像演習A		10	金曜日	4	実習
メディア映像	37171101	メディア映像演習C		12	火曜日	4	実習
メディア映像	37170201	メディア映像基礎実技B		10	その他	0	実習
メディア映像	37170401	メディア映像実技ⅡB		13	その他	0	実習
メディア映像	37170601	メディア映像実技ⅢB		7	その他	0	実習
メディア映像	37300201	メディア映像特殊ゼミA		12	月曜日	4	実習
博物館	36100301	博物館経営論		11	水曜日	5	講義
博物館	36100501	博物館資料保存論		10	金曜日	3	講義
博物館	36100601	博物館展示論		12	木曜日	4	講義
	36100101	生涯学習概論					
関連	37270601/37290201	図学/図学及び遠近法		60	木曜日	5	講義
関連	37290101	美術解剖学	(隔週・偶数週)	75	金曜日	3	講義
関連	34201201	デザイン史B	(隔週・奇数週)	24	金曜日	4	講義

2024年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(音楽)

専攻・コース	科目名称	授業名称	履修者数	開講曜日	時間	講義/実技
作曲	対位法B		12	火曜日	4	講義
作曲	対位法B		11	火曜日	4	講義
作曲	対位法B		24	火曜日	4	講義
作曲	楽式論B		19	水曜日	3	講義
作曲	楽式論B		25	水曜日	4	講義
作曲	楽式論B		14	水曜日	5	講義
作曲	キーボードハーモニーB		25	火曜日	2	実習
作曲	楽曲研究B		15	水曜日	2	実習
作曲	楽曲分析ⅠB		9	木曜日	2	実習
作曲	楽曲分析ⅡB		8	火曜日	4	実習
作曲	作曲研究ⅣB		7	その他	0	実習
作曲	和声ⅠB		16	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠB		20	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠB		16	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠB		18	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅠB		15	火曜日	1	実習
作曲	和声ⅡB		23	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡB		18	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡB		17	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡB		17	火曜日	2	実習
作曲	和声ⅡB		20	火曜日	2	実習
音楽学	楽書講読(英)ⅠB/ⅡB		12	水曜日	1	講義
音楽学	オペラ総論		51	水曜日	2	講義
音楽学	西洋音楽史概説B		98	火曜日	3	講義
音楽学	ポピュラー音楽概論		30	水曜日	3	講義
声楽	音楽芸術言語(伊語)ⅠB		12	火曜日	2	講義
声楽	音楽芸術言語(伊語)ⅡB		8	月曜日	4	講義
声楽	音楽芸術言語(独語)ⅠB		6	火曜日	1	講義
声楽	音楽芸術言語(独語)ⅡB		5	火曜日	4	講義
声楽	音楽芸術言語(仏語)ⅠB		4	月曜日	2	講義
声楽	オペラ基礎B		29	木曜日	2	実習
声楽	声楽B		60	-	-	実習
声楽	合唱B		53	月曜日	3	実習
声楽	オペラ研究B		27	木曜日	3	実習
声楽	合唱ⅠB～ⅢB	(女)	82	金曜日	5	実習
声楽	合唱ⅠB～ⅢB、重唱B	(男)	38	金曜日	2	実習
ピアノ	ピアノ奏法ⅠB		67	その他	0	実習
ピアノ	ピアノ奏法ⅡB		68	その他	0	実習
ピアノ	ピアノ奏法ⅢB		51	その他	0	実習
ピアノ	ピアノ合奏B		22	その他	0	実習
ピアノ	伴奏法・器楽曲B		22	水曜日	1	実習
ピアノ・大学院	特殊研究(鍵盤楽器領域27)		5	水曜日	5	実習
ピアノ・大学院	室内楽1(鍵盤楽器領域)B		10	火曜日	1	実習
弦	弦楽合奏ⅠB～ⅣB、B		33	水曜日	4	実習
弦	室内楽(弦)ⅠB～ⅣB		8	木曜日	1	実習
弦・大学院	室内楽1(弦楽器領域)B		5	金曜日	1	実習
弦・管打楽器	オーケストラⅠB～ⅣB、B	(弦楽器)	52	金曜日	3	実習
弦・管打楽器	オーケストラⅠB～ⅣB、B	(管打楽器)	86	金曜日	3	実習
管打	管打楽器奏法の研究ⅡB		20	その他	0	実習
管打	合奏B		25	木曜日	3	実習
管打	管楽合奏ⅠB～ⅣB、B		87	水曜日	0	実習
管打	管打学基礎ⅠB、ⅡB		42	金曜日	4	実習
管打	室内楽(管打)ⅠB～ⅣB		75	木曜日	1	実習
管・大学院	室内楽1(管楽器領域)B/室内楽1(打楽器領域)B		8	木曜日	2	実習

2024年度後期授業評価アンケート実施授業一覧(教養教育)

科目名称	授業名称	合計	曜日	時限	講義/実習
イタリア語初級ⅠB		11	火曜日	3	講義
イタリア語初級ⅠB		22	火曜日	4	講義
イタリア語初級ⅡB	(美術)	10	月曜日	3	講義
イタリア語初級ⅡB	(音楽)	24	水曜日	2	講義
イタリア語中級ⅠB		15	水曜日	4	講義
イタリア語中級ⅡB		27	水曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅰ		38	火曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅰ		33	火曜日	5	講義
コンピューター基礎Ⅱb		24	木曜日	3	講義
コンピューター基礎Ⅱc		26	月曜日	5	講義
ドイツ語初級ⅠB		29	月曜日	3	講義
ドイツ語初級ⅠB		57	月曜日	4	講義
ドイツ語初級ⅡB		48	水曜日	2	講義
ドイツ語初級ⅡB		32	水曜日	3	講義
ドイツ語中級ⅠB		17	火曜日	4	講義
フランス語初級ⅠB		16	月曜日	4	講義
フランス語初級ⅠB		15	木曜日	4	講義
フランス語初級ⅡB		16	水曜日	3	講義
フランス語初級ⅡB		11	水曜日	4	講義
フランス語中級ⅡB		10	水曜日	3	講義
異文化コミュニケーションB		11	月曜日	5	講義
英語初級ⅠB		40	月曜日	3	講義
英語初級ⅠB		23	月曜日	4	講義
英語初級ⅠB		24	月曜日	4	講義
英語初級ⅡB		34	水曜日	2	講義
英語初級ⅡB		23	水曜日	3	講義
英語初級ⅡB		21	水曜日	3	講義
英語上級ⅠB		12	月曜日	5	講義
英語中級ⅠB		30	月曜日	3	講義
英語中級ⅠB		24	月曜日	4	講義
英語中級ⅠB		22	月曜日	4	講義
英語中級ⅡB		70	水曜日	3	講義
英語中級ⅡB		10	木曜日	3	講義
外国文化史		29	火曜日	5	講義
外国文学B		49	水曜日	4	講義
基礎生物学B		21	月曜日	3	講義
基礎物理学B		17	火曜日	4	講義
芸術と諸科学	(隔週)	54	水曜日	4	講義
工芸科教育法B		10	その他	0	講義
自由研究ゼミナールⅠ		20	水曜日	2	講義
自由研究ゼミナールⅡ		11	木曜日	5	講義
社会学ⅠB		86	木曜日	3	講義
社会学ⅡB		98	木曜日	4	講義
宗教学B		130	金曜日	4	講義
心理学B		78	水曜日	5	講義
人類学B		78	木曜日	4	講義
数学B		48	月曜日	5	講義
西洋史B		35	木曜日	5	講義
哲学B		124	金曜日	3	講義
日本国憲法	(作曲・音楽学・声楽)	35	金曜日	3	講義
教育課程論	(美・作曲・音楽学・ピアノ)	71	金曜日	5	講義
教育課程論	(声楽・弦・管打)	58	月曜日	5	講義
教育心理学	(ピアノ以外の音楽)	54	火曜日	3	講義
教育心理学	(美術・ピアノ)	71	水曜日	4	講義
教育相談	(美術・ピアノ)	60	月曜日	3	講義
教育方法・総合的な学習の時間の指導論	(ピアノ以外の音楽)	48	火曜日	5	講義
教職ICT活用論	(前半/ピアノ・彫刻)	29	木曜日	3	講義
教職ICT活用論	(後半/彫刻以外の美術)	32	木曜日	3	講義
教職入門	(音楽・ピアノ半分)	67	火曜日	4	講義
教職入門	(美術・ピアノ半分)	61	月曜日	5	講義
生涯学習概論		10	木曜日	3	講義
生徒・進路指導論	(ピアノ以外の音楽)	48	木曜日	4	講義
生徒・進路指導論	(美術・ピアノ)	59	木曜日	5	講義
音楽科教育法A		59	月曜日	4	講義
音楽科教育法C		51	月曜日	5	講義
美術科教育法A		36	金曜日	3	講義
美術科教育法C		22	金曜日	4	講義
道徳教育指導論	(声楽以外の音楽)	34	火曜日	5	講義
特別支援教育論		118	木曜日	3	講義
スポーツ・健康科学B		15	水曜日	4	実習
基本体育B		12	火曜日	3	実習
基本体育B		6	火曜日	4	実習
基本体育B		26	火曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA、ⅠB、ⅡB		7	木曜日	4	実習
身体運動演習ⅠA、ⅠB、ⅡB		25	木曜日	5	実習
身体運動演習ⅠA/ⅠB		7	水曜日	5	実習

2025年前期授業評価アンケート 平均値（講義）

回答率：57.9%（全体）
その他の平均値：以下のグラフを参照

授業評価アンケート（講義）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
回答している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を守った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様です。回答者が特定されるような記述は控えた上で、より良い授業となるよう、率直なご意見をお寄せください。

あなたはどの授業にどの程度出席しましたか。

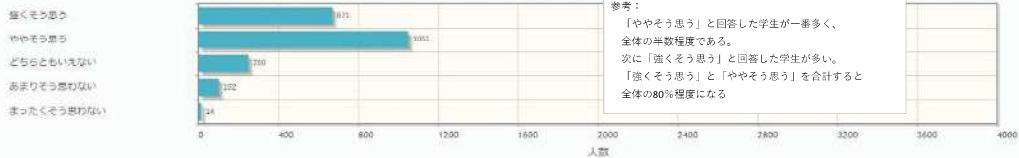
棒グラフ 円グラフ



参考：
90%くらい出席した学生が一番多く、
次に100%出席した学生が多い。
100%出席した学生と90%くらい出席した学生を
合計すると全体の3/4（75%）程度になる

あなたはどの授業に意欲的に取り組みましたか。

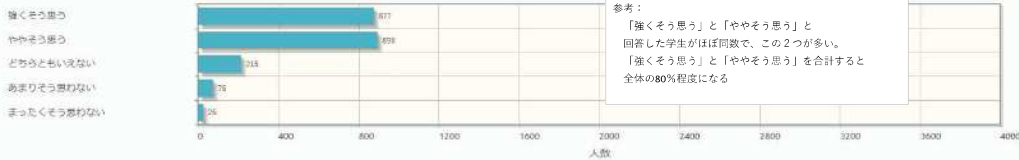
棒グラフ 円グラフ



参考：
「ややそう思う」と回答した学生が一番多く、
全体の半数程度である。
次に「強く思う」と回答した学生が多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の80%程度になる

この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

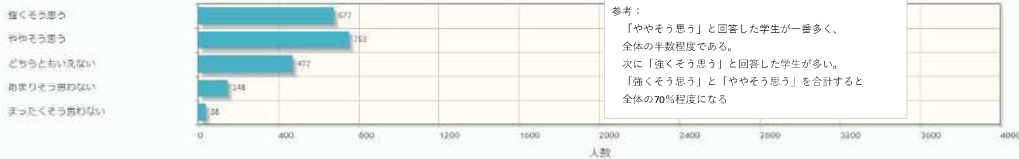
棒グラフ 円グラフ



参考：
「強く思う」と「ややそう思う」と
回答した学生がほぼ同数で、この2つが多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の80%程度になる

「シテパス」は授業の取組に役立ちましたか。

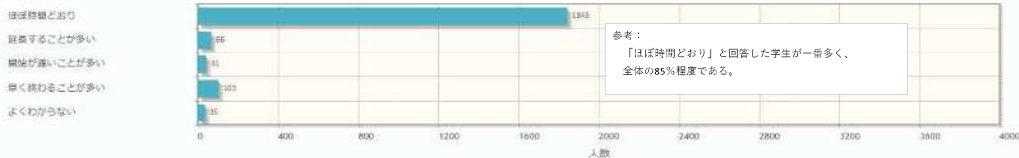
棒グラフ 円グラフ



参考：
「ややそう思う」と回答した学生が一番多く、
全体の半数程度である。
次に「強く思う」と回答した学生が多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の70%程度になる

授業の開始時間や終了時間は正しくやられていましたか。

棒グラフ 円グラフ



参考：
「ほぼ時間どおり」と回答した学生が一番多く、
全体の85%程度である。

教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

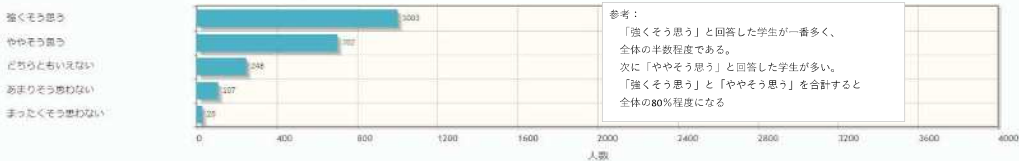
棒グラフ 円グラフ



参考：
「強く思う」と回答した学生が一番多く、
全体の半数以上である。
次に「ややそう思う」と回答した学生が多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の85%程度になる

教書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

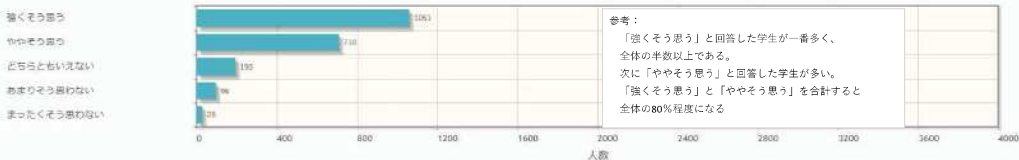
棒グラフ 円グラフ



参考：
「強く思う」と回答した学生が一番多く、
全体の半数程度である。
次に「ややそう思う」と回答した学生が多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の80%程度になる

教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

棒グラフ 円グラフ



参考：
「強く思う」と回答した学生が一番多く、
全体の半数以上である。
次に「ややそう思う」と回答した学生が多い。
「強く思う」と「ややそう思う」を合計すると
全体の80%程度になる

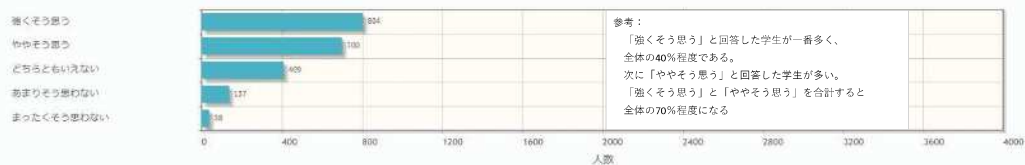
教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

棒グラフ 円グラフ



教員とコミュニケーションはとれていましたか。

棒グラフ 円グラフ



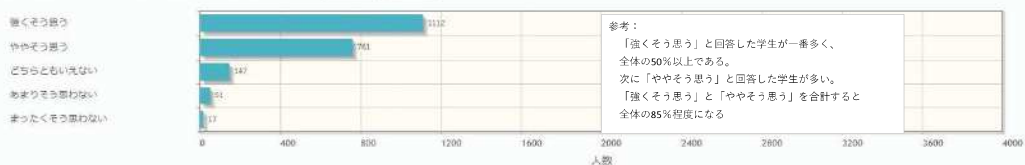
教室・設備については適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思えますか。

棒グラフ 円グラフ



2025年前期授業評価アンケート 平均値（実習）

回答率：52.9%（全体）

その他の平均値：以下のグラフを参照

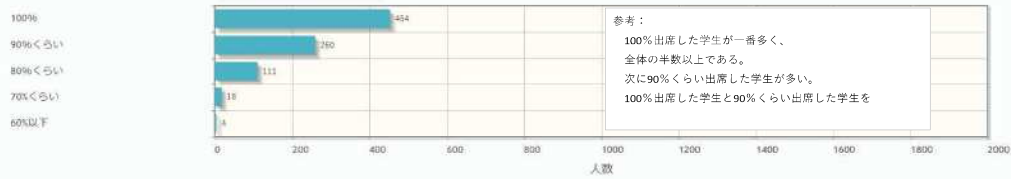
授業評価アンケート（実習）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
厚修している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を保った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様ですので、回答者が特定されるような記述は控えた上で、より良い授業となるよう、率直なご意見をお寄せください。

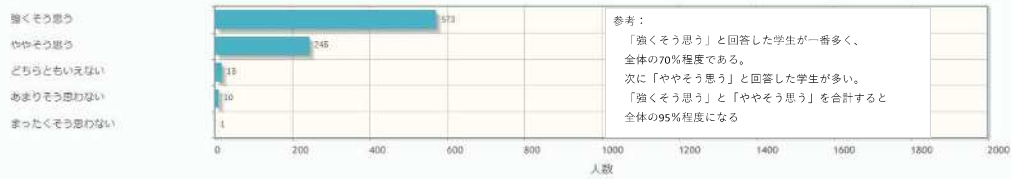
あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

棒グラフ 円グラフ



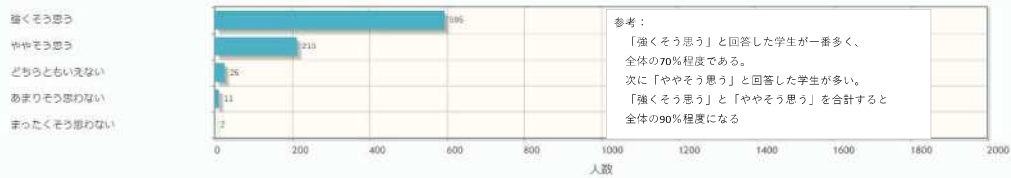
あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

棒グラフ 円グラフ



この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

棒グラフ 円グラフ



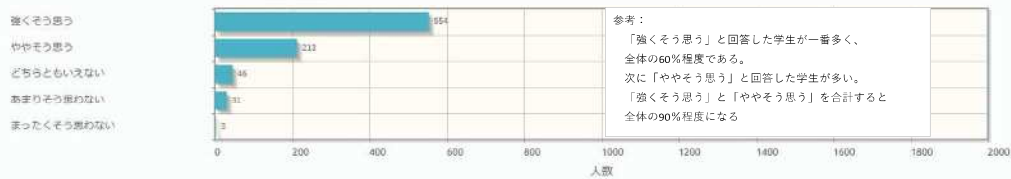
「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

棒グラフ 円グラフ



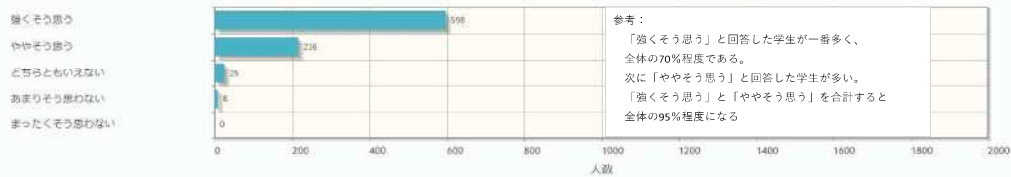
授業時間は十分だと感じましたか。

棒グラフ 円グラフ



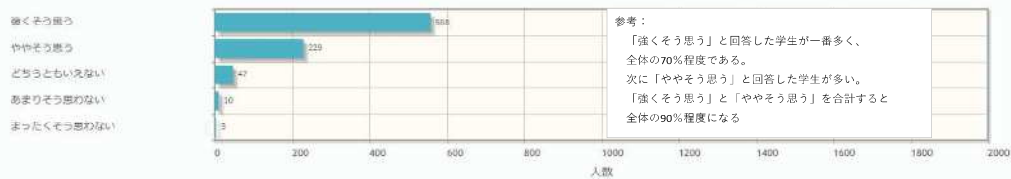
教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



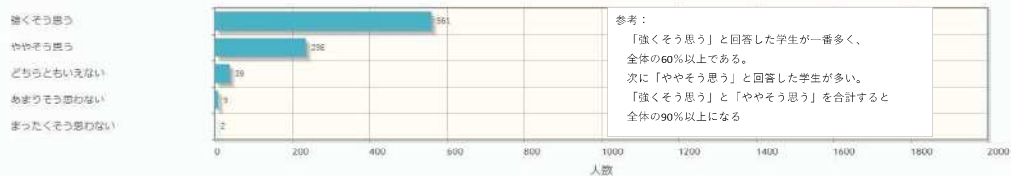
教員とコミュニケーションはとれていましたか。

棒グラフ 円グラフ



あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受けることができましたか。

棒グラフ 円グラフ



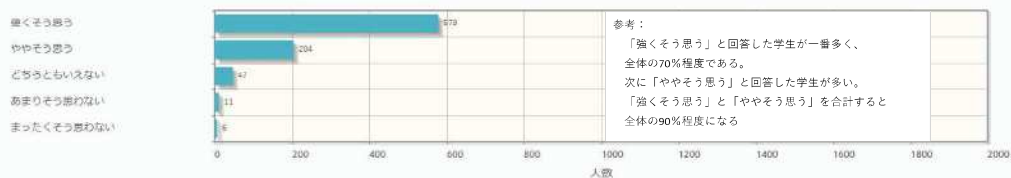
教室・設備については適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



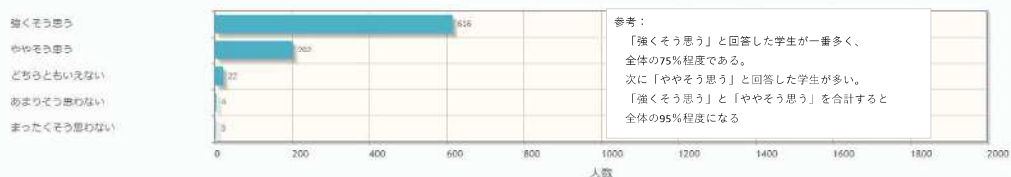
この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

棒グラフ 円グラフ



授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

棒グラフ 円グラフ



2025年後期授業評価アンケート 平均値（講義）

回答期間：2025/01/20(月) 00:00 ～ 2025/02/19(水) 23:59
対象者数：3,617名 回答者数：1,787名 回答率：49.4%

集計結果

グラフの表示形式一指変更

棒グラフ

円グラフ

授業評価アンケート（講義）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
履修している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を保った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様です。回答者が特定されるような記述は控え、より良い授業となるよう、率直なご意見をお寄せください。

あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

棒グラフ

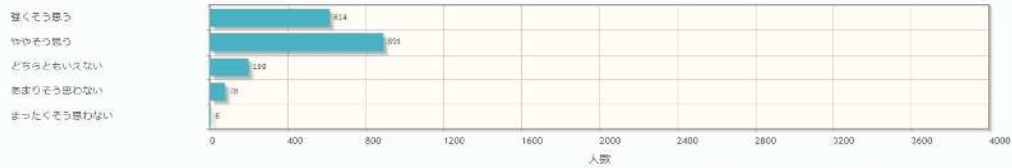
円グラフ



あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたが。

棒グラフ

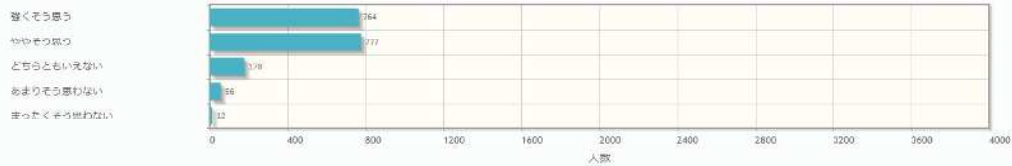
円グラフ



この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

棒グラフ

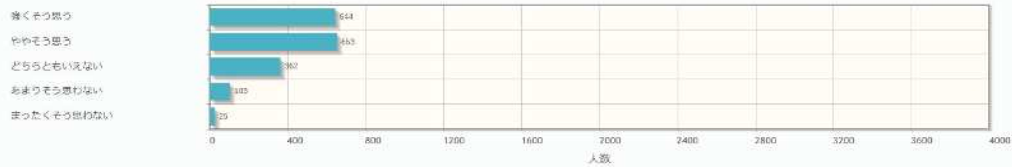
円グラフ



「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

棒グラフ

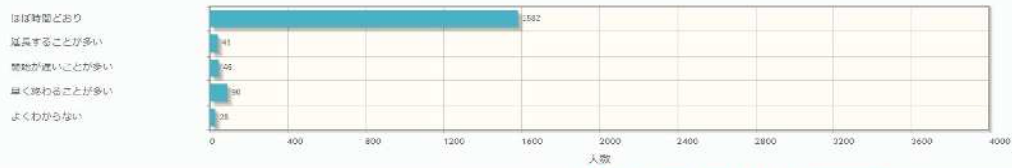
円グラフ



授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

棒グラフ

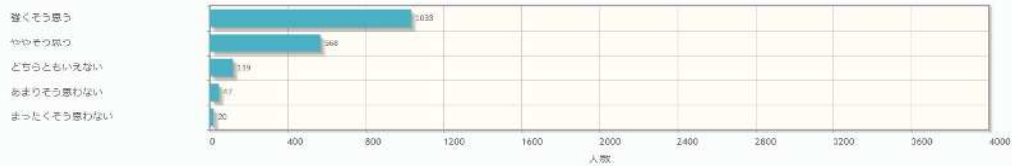
円グラフ



教員の話し方、話すスピードは適切でしたが。

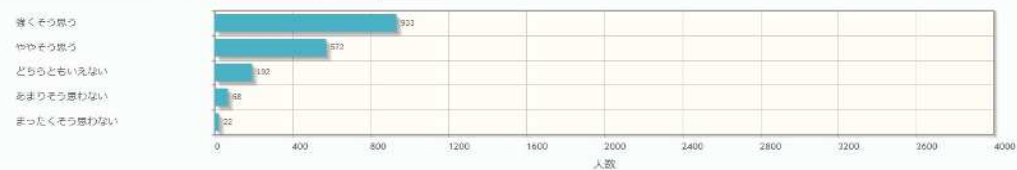
棒グラフ

円グラフ



様式やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

棒グラフ 円グラフ



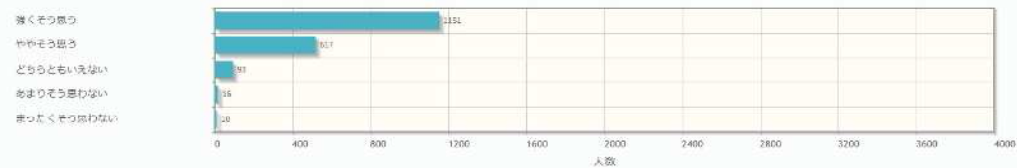
教員の説明のしかたはわかりやすかったですか。

棒グラフ 円グラフ



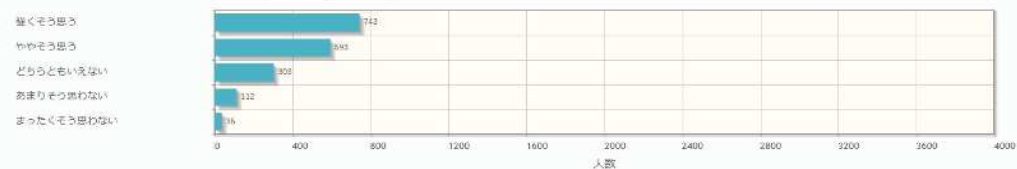
教員は授業をよく準備し、熱心に教えられていると感じられましたか。

棒グラフ 円グラフ



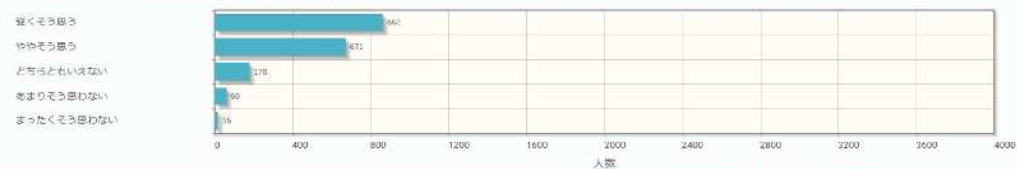
教員とコミュニケーションはとれていましたか。

棒グラフ 円グラフ



教室・設備については適切でしたが。

棒グラフ 円グラフ



授業内容について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

棒グラフ 円グラフ



2025年前期授業評価アンケート 平均値（実習）

調査期間：2025/01/20(月) 00:00 ～ 2025/02/19(水) 23:59
対象者数：1,605名 回答者数：665名 回答率：41.4%

集計結果

グラフの表示形式一括変更 **棒グラフ** 円グラフ

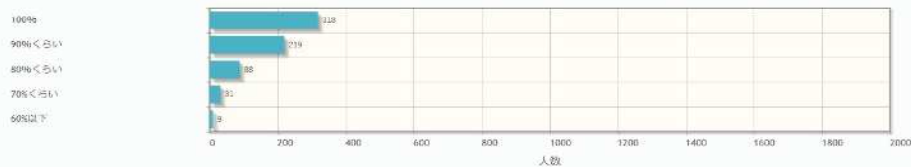
授業評価アンケート（実習）

授業評価アンケートを実施しますのでご協力をお願いします。
今後皆さんが受ける授業をよりよいものにするために、重要なアンケートです。
懸念している方は、必ず回答をお願いします。

またアンケートの集計結果は回答者の匿名性を保った上で、専攻及び担当教員へ共有されます。
自由記述についても同様ですので、回答者が特定されるような記述は控えた上で、より良い授業となるよう、貴重なご意見を 부탁드립니다。

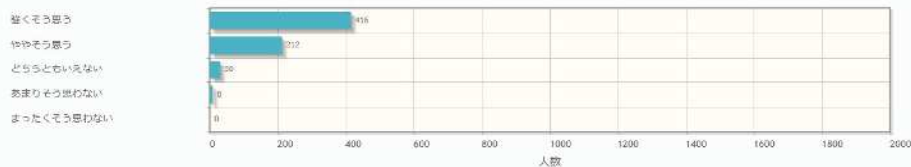
あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

棒グラフ 円グラフ



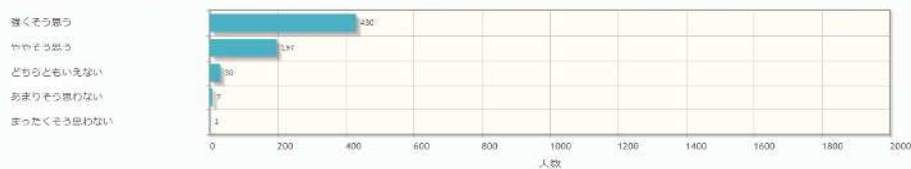
あなたはこの授業に意欲的に取り組めましたか。

棒グラフ 円グラフ



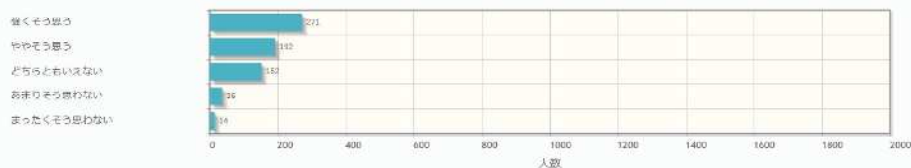
この授業を受けた後、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

棒グラフ 円グラフ



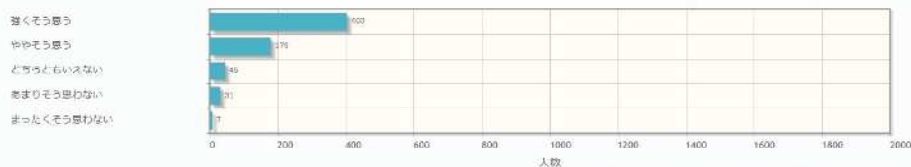
「シラバス」は授業の取組に役立ちましたか。

棒グラフ 円グラフ



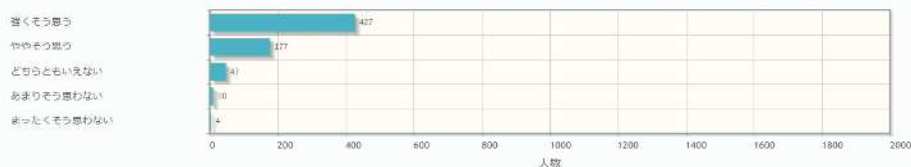
授業時間は十分だと感じましたか。

棒グラフ 円グラフ



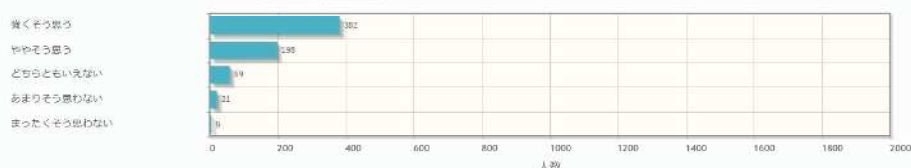
教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

棒グラフ 円グラフ



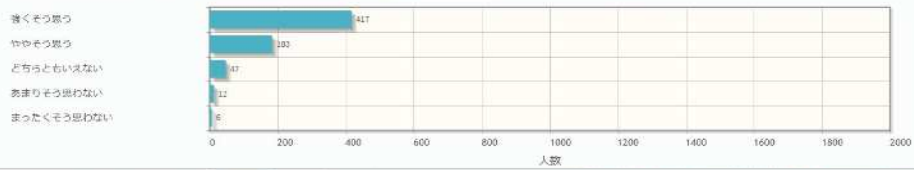
教員とコミュニケーションはとれていましたか。

棒グラフ 円グラフ



あなたの現在の力量にあった、適切な指導を受けることができましたか。

棒グラフ 円グラフ



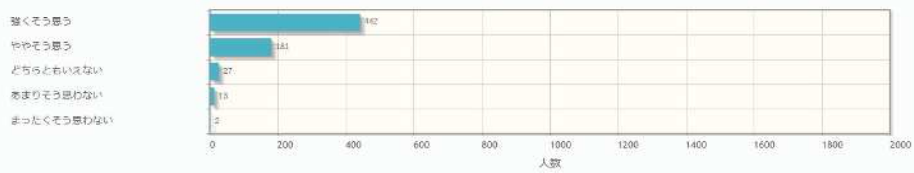
教室・設備については適切でしたが。

棒グラフ 円グラフ



この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

棒グラフ 円グラフ



授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

棒グラフ 円グラフ



第3章 FD 研修会

令和6年度 FD 研修会

(1) はじめに

愛知県立芸術大学では、芸術家、アーティスト活動を目指す本学学生の育成・教育指導にあたる教職員に向け、現在の社会情勢の中で「学生が何を身につけなくてはならないか」を学ぶとともに、教員の専門知識の更新と拡充をはかり、学生の学習効果を最大限に引き出すことを目的とし、FD研修会を開催しています。

今回は、情報科学芸術大学院大学より飛谷 謙介准教授をお招きし、“人工知能と芸術表現“についてご講演いただくとともに、質疑応答・情報交換を行った。

(2) 開催概要

日程：令和6年11月6日(水)13時30分～15時30分まで

場所：新講義棟大講義室

講師：飛谷 謙介 先生(情報科学芸術大学院大学 准教授)

テーマ：「人工知能と芸術表現」

13：30～13：35 挨拶 白河宗利学長

13：35～14：50 講話 飛谷謙介先生

14：50～15：20 質疑応答

15：20～15：30 まとめ 佐藤直樹学生教育支援センター長

(3) 参加者数

教員 52 名、職員 29 名の計 81 名が参加した。

令和6年度 京都市立芸術大学共同FD意見交換会

(1) はじめに

他の芸術大学のFD活動に関する取り組み状況を知る機会として、同じ公立の総合芸術大学である京都市立芸術大学と共同でオンライン形式によるFDに関する意見交換会を実施した。

(2) 開催概要

1 実施日時 令和7年1月23日(木) 午後2時～午後4時

愛知県立芸術大学側の会場：学長室

2 参加大学 愛知県立芸術大学 京都市立芸術大学 (オンライン形式)

3 出席者 (敬称略)

(1) 愛知県立芸術大学 (11名)

副学長 倉地久

芸術教育・学生支援センター長 佐藤直樹

美術学部長 長井千春

音楽学部長 成木理香 [オンライン出席]

FD委員会委員長 井出創太郎 (美術学部油画専攻)

副委員長 渡邊玲雄 (音楽学部器楽専攻弦楽器コース)

同委員 清水由朗 (美術学部日本画専攻)

本田光子 (美術学部芸術学専攻) [オンライン出席]

八嶋有司 (美術学部メディア映像専攻)

谷口 博伴 (学務部長)

神谷麻理子 (学務課長)

(2) 京都市立芸術大学 (13名)

全学FD委員会委員長 武内恵美子 (日本伝統音楽研究センター准教授)

同委員会副委員長 森野彰人 (美術学部長)

同委員会副委員長 岡田加津子 (音楽学部長)

同委員会委員 川嶋渉 (副学長)

礪波恵昭 (美術研究科長)

村上哲 (音楽研究科長)

細川周平 (日本伝統音楽研究センター所長)

滝口洋子 (美術学部教務委員長)

池上健一郎 (音楽学部教務委員長)

田中栄子 (美術学部教授)

久保和範 (音楽学部教授)

天沼憲 (事務局長)

渡邊友季子 (教務学生課長)

4 テーマ 芸術大学におけるFDとは

(1) FDについて

基本知識の共有化の現状と改善点について

目的、定義、位置付け、内容を明確化について

(2) 授業方法、カリキュラムの改善のためのFDについて

授業アンケートとFD

学生指導、合評や公表での多様な指導言語の習得のためのFD

(3) 内部質保証とFDについて

令和6年（2024）度 愛知県立芸術大学FD研修会の開催案内

FD委員長

1. 目的

令和6年度全学FD研修を下記のとおり開催いたします。この研修は、大学の健全な運営を図るため、教職員を対象に特別に実施されるものです。

お忙しいところかと思いますが、教職員の皆様には必ずご出席をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

2. 日 時：令和6年11月6日（水）13時30分～15時30分
（特別休講日です）

3. 場 所：新講義棟大講義室

4. 対象者：本学教員（当日は出欠確認をさせていただきます。欠席の場合は事前連絡をお願いします。）

5. テーマ：「人工知能と芸術表現」

6. 講 師：飛谷 謙介 先生（情報科学芸術大学院大学 准教授）

担当 学務課（神谷・秋田）

電 話 0561-64-1115（内線 275・216）